



Gunma Museum of Art,
Tatebayashi

群馬県立館林美術館

群馬県立館林美術館年報 平成15年度

Annual Report

目次

• 展覧会 p.3

- A 展覧会一覧 p.3
- B 企画展示記録 p.4
- C 特別展示記録 p.26
- D コレクション展示記録 p.35
- E 昭和庁舎特別展示記録 p.47
- F 観覧者数一覧表 p.49

• 教育普及 p.50

- A 講演会 p.50
- B 作品解説会・ギャラリートーク p.50
- C ワークショップ p.52
- D 創作体験コーナー「みんなのアトリエ」 p.54
- E 美術講座 p.54
- F ミュージアム・オリエンテーリング GMAT探検隊 p.55
- G 子どもミュージアム・スクール p.55
- H 学校連携その他 p.56
- I 刊行物 p.57
- J ボランティア p.59
- K 友の会 p.59

• 所蔵資料 p.60

- A 美術作品 p.60
- B 図書資料その他 p.65

• 関係者および職員名簿 p.66

(1)企画展示

展示名	会期、会場	内容
「みどりのちから ー日本近現代絵画に みる植物の表現ー」	4/12～5/25 展示室2～4	近現代日本絵画における植物表現への取り組みを、花鳥図屏風などの日本画や、洋画、現代美術作品、植物図譜など約90点の絵画で概観。
親子のための美術展 「動物、アートとなる」	7/19～9/7 展示室1～4	作家が自然へのさまざまなメッセージを託し制作した、動物をモチーフとした近現代美術の絵画や彫刻をとおして、人間と動物のさまざまな関わりをみつめる。
「フィンランドの美術 ー神話が息づく自然の国ー」	9/20～11/24 展示室2～4	フィンランド各地に遺された神話を収集・改編し、19世紀に編纂された国民的叙事詩「カレワラ」を題材とした作品を中心に、フィンランドの近現代美術を紹介。

(2)特別展示

展示名	会期、会場	内容
福沢一郎の世界	6/7～7/6 展示室2～3	群馬県西部の富岡市に生まれ、日本の画壇におけるシュルレアリスム運動の嚆矢として活動した福沢一郎の作品世界を、幅広く紹介。
永井一正の動物ポスター	12/6～4/4 展示室2	現代日本を代表するグラフィックデザイナーである永井一正が、1980年代の終わり頃から制作し始めた動物をモチーフとしたポスター群を、3期に分け一堂に展示。

(3)コレクション展示

展示名	会期、会場	内容
現代の彫刻Ⅰ	4/3～7/13 展示室1	バリー・フラナガン、ジム・ダインなど。
現代の彫刻Ⅱ	9/11～11/30 展示室1	イサム・ノグチ、土谷武など。
現代の彫刻Ⅲ	12/6～4/4 展示室1	バーバラ・ハップワース、マリア・ルゴッシーなど。
ピカソ、ミロ版画展	6/7～7/6 展示室4	ともにスペイン出身の、ピカソとミロの版画を紹介。
田崎草雲と小室翠雲	12/6～1/12 展示室3	館林出身の日本画家、小室翠雲とその師、田崎草雲を紹介。
小室翠雲と岸浪百艸居	1/15～2/22 展示室3	小室翠雲、磯部草丘らの日本画。
藤牧義夫	2/25～4/4 展示室3	館林出身で1930年代に活動した藤牧義夫の木版画を展示。
パリへ向かうということ	12/6～4/4 展示室4	さまざまな地域出身の作家が、パリで描いた作品を展示。

1. みどりのちからー日本近現代美術にみる植物の表現

会期 平成15年4月12日(土)～5月25日(日)
 会場 展示室2、3、4
 主催 群馬県立館林美術館
 観覧料 一般：800(640)円 大高生：400(320)円
 () 内は20名以上の団体割引料金

植物のつたえる季節感や生命感、またその精妙なかたちは古来、多彩な造形芸術を生み出してきた。近代以降、日本の絵画における植物の表現は急激な近代化と自然環境の変化のもと変容し、さらに東洋の古典の見直しを経て、豊かな展開を示した。本展では、近現代日本絵画におけるこうした植物表現への取り組みを、花鳥図屏風などの日本画や、洋画、現代美術作品、植物図譜など94点の絵画で概観した。

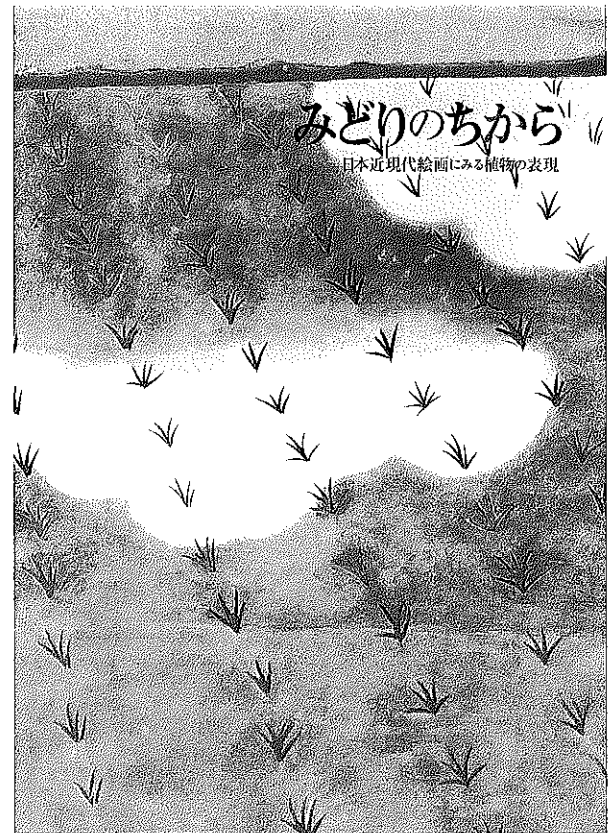
第1章「季節の便り」では、明治30年以降、新たな自然観を取り入れていった横山大観らの日本画を取り上げた。第2章「植物を見つめるー大正期の細密描写を中心にー」では、「2-1 写実の追究ー日本画」と「2-2 日常の植物ー洋画」に分け、岸田劉生の影響を受けた作家を中心に、大正期から昭和初期にかけての植物表現を紹介した。第3章「植

物の変容」では、「3-1 心象の花・幻想の樹ー日本画」と「3-2 シュルレアリスムと植物ー洋画」に分け、第二次世界大戦後の日本画と戦前から戦後にかけての洋画に共通する、幻想的な植物表現を提示した。第4章「植物のかたち・植物のリズムー植物による画面構成」では、植物をモチーフに形態と色彩を単純化し、画面を構成することによって、そこに独特のリズムを醸し出している戦後の作品を取り上げ、第5章「新たなる植物との関係」では、現代美術作品を、第6章「植物を集めるー植物画、写生画」では、植物図譜的な作品を紹介した。全体の章立ては以上の通りであるが、会場では作品の性質上、日本画、洋画、現代美術作品の順での展示構成となった。

植物図譜的な作品が出品されていたこともあり、植物画研究で著名な植物学者、大場秀章氏による記念講演会を行った。出品作家押江千衣子氏によるワークショップ「みどりと出会う」および、植物画家の豊田路子氏による「ボタニカルアート(植物細密画)に挑戦」では、参加者が講師の指導のもと作品制作を行った。



ポスター



図録

出品目録

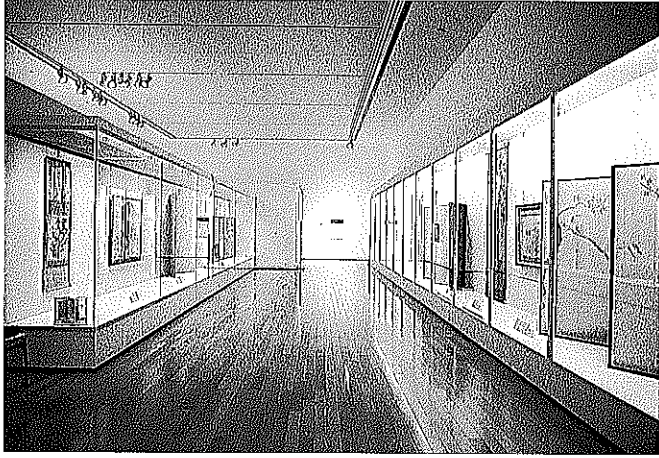
No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
第1章 季節の便り							
1	横山大観	月下牧童	1901頃	絹本着色・軸	123.5×56.7	滋賀県立近代美術館	○
2	横山大観	山路	1911	絹本着色・軸	159.6×70.9	京都国立近代美術館	
3	今村紫紅	菖の細道	1913	絹本着色・軸	126.0×41.3	横浜美術館	
4	小茂田青樹	四季草花より 夏 四季草花より 冬	1919	絹本着色 六曲二双屏風のうち一双	各132.5×259.0	滋賀県立近代美術館	
5	小茂田青樹	麦踏	1919	絹本着色・額	42.1×49.5	埼玉県立近代美術館	
6	池上秀敏	桜花雙鳩・秋草群鴉図	1921	絹本着色・二曲一双屏風	各168.0×165.0	練馬区立美術館	
7	勝田蕉琴	安らかなる鳥の巢	1921	絹本着色・二曲一双屏風	各169.0×169.5	福島県立美術館	
8	荒木十畝	閑庭早春	1922	絹本着色・軸	233.0×50.0	練馬区立美術館	
9	酒井三良	桑摘	1923頃	絹本着色・軸	127.6×41.6	茨城県立近代美術館	○
10	石川寒巖	松林図	1924	絹本着色・額	101.5×146.5	栃木県立美術館	
11	小倉遊亀	首夏	1928	絹本着色・二曲一双屏風	114.5×157.0	滋賀県立近代美術館	○
12	山口蓬春	春野	1931	絹本着色・軸	125.4×39.9	山口蓬春記念館	
13	酒井三良	残秋	1933	絹本着色・軸	63.8×83.3	福島県立美術館	●
14	小林古径	艸花	1935	絹本着色・額	56.5×85.0	横浜美術館	
15	富田溪仙	万葉春秋	1936	絹本着色・二曲一双屏風	各171.3×185.3	京都国立近代美術館	
16	松林桂月	香橙	1952	絹本着色・軸	49.0×57.0	東京都現代美術館	
第2章 植物をみつめる一大正期の細密描写を中心に							
[2-1 写実の追究—日本画]							
17	望月春江	春に生きんとす	1921	紙本着色・額	140.0×150.0	個人蔵	
18	速水御舟	紅梅	1921	紙本着色・軸	45.0×39.2	メナード美術館	◎
19	小茂田青樹	ボンボンダリア	1922	絹本着色・軸	78.9×56.0	横浜美術館	
20	徳岡神泉	蓮	1922頃	絹本着色・額	62.0×85.0	東京国立近代美術館	
21	堅山南風	蜻蜓 魚菜図ノ内其三	1926	紙本着色・軸	71.3×93.1	横浜美術館	
22	小倉遊亀	胡瓜	1928頃	絹本着色・軸	57.0×70.8	滋賀県立近代美術館	●
23	奥村土牛	蓮池	1929	絹本着色・額	134.8×142.8	東京都現代美術館	
24	土田麦僊	甜瓜図	1931	絹本着色・軸	64.6×106.3	埼玉県立近代美術館	
25	小山大月	苗圃	1931	紙本着色・額	167.4×182.7	佐久市立近代美術館	
26	麻田辨白	南瓜畑	1934	絹本着色・二曲一隻屏風	174.0×203.0	京都国立近代美術館	
[2-2 日常の植物—洋画]							
27	木村荘八	樹の下に遊んでいる子供	1915	油彩・カンヴァス	60.8×80.6	福島県立美術館	
28	牧野虎雄	庭の少女(中庭)	1921	油彩・カンヴァス	94.8×111.0	東京都現代美術館	
29	岸山劉生	籠中脂香	1923	油彩・カンヴァス	32.1×33.5	茨城県立近代美術館	
30	萬鉄五郎	椿	1926	油彩・カンヴァス	31.8×41.1	平塚市美術館	
31	小糸源太郎	嬋娟	1937	油彩・カンヴァス	145.5×106.0	東京都現代美術館	
32	野口謙蔵	雑草	1937	油彩・カンヴァス	129.5×193.7	滋賀県立近代美術館	
33	須田国太郎	椿	1940頃	油彩・カンヴァス	50.0×61.0	茨城県立近代美術館	
第3章 植物の変容							
[3-1 心象の花・幻想の樹—日本画]							
34	平川敏夫	晩春の庭	1954	紙本着色・額	136.0×103.0	佐久市立近代美術館	
35	工藤甲人	地の手と目	1964	紙本着色・額	130.0×162.0	横浜美術館 (神戸とわ氏寄贈)	
36	近藤弘明	寂夜	1966	紙本着色・額	124.2×160.2	横浜美術館 (近藤弘明氏寄贈)	○
37	郷倉和子	満月	1968	紙本着色・四曲一隻屏風	173.4×332.6	佐久市立近代美術館	●
38	山本丘人	狭霧野	1970	紙本着色・四曲一隻屏風・額	134.0×228.0	東京国立近代美術館	
39	浜田靄	午の花	1973	紙本着色・額	209.0×145.5	京都市美術館	
40	山口華楊	鶏頭の庭	1977	紙本着色・額	161.5×115.0	京都市美術館	
41	大野叔嵩	羯羅俱熾	1982	絹本着色・額	96.5×80.0	名古屋市美術館	
42	大野叔嵩	羯羅俱熾のための下絵	1982頃	鉛筆・紙	97.3×82.6	名古屋市美術館	
43	大野叔嵩	僧ヶ岳雪椿	1983	綿本着色・額	90.9×116.7	富山県立近代美術館	
44	吉田善彦	夜桜	1986	紙本着色・四曲一隻屏風	181.3×363.0	東京都現代美術館	

No. 作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
[3-2 シュルレアリスムと植物—洋画]						
45	川口軌外	スヴニール	1932	油彩・カンヴァス	116.5×80.4	京都国立近代美術館
46	北脇昇	空港	1937	油彩・カンヴァス	72.5×60.5	東京国立近代美術館
47	巖光	花と蝶	1941-42頃	油彩・カンヴァス	72.6×60.8	練馬区立美術館
48	巖光	グラジオラス	1942頃	油彩・カンヴァス	32.8×23.7	横須賀市美術館 開設準備室
49	寺田政明	夜の花	1942	油彩・カンヴァス	44.0×36.5	東京都現代美術館
50	杉全直	喰人花	1947頃	油彩・カンヴァス	130.5×194	東京都現代美術館
第4章 植物のかたち・植物のリズム—植物による画面構成						
51	小野竹喬	奥入瀬の溪流	1951	絹本着色・額	116.0×156.0	東京都現代美術館
52	福田平八郎	筍	1960	紙本着色・額	79.5×55.0	メナード美術館
53	徳岡神泉	刈田	1960	紙本着色・額	142.0×114.5	東京国立近代美術館
54	安田鞞彦	紅梅	1961	紙本着色・額	164.4×91.8	滋賀県立近代美術館
55	池田遙邨	囀	1972	紙本着色・額	206.5×136.5	京都市美術館
56	小野竹喬	奥の細道句抄絵 田一枚植ゑて立ち去る柳かな	1976	紙本着色・額	59.0×90.0	京都国立近代美術館
57	山口薫	地の星「娘と花」	1937-47頃	油彩・カンヴァス	38.0×45.6	群馬県立近代美術館
58	島海青児	アカシア	1941	油彩・カンヴァス	99.8×80.7	平塚市美術館
59	牛島憲之	炎昼	1946	油彩・カンヴァス	121.0×60.5	京都国立近代美術館
60	矢橋六郎	ぼたん	1950	油彩・カンヴァス	91.0×72.7	岐阜県美術館
61	熊谷守一	ケシ	1956	油彩・カンヴァス	45.0×37.5	埼玉県立近代美術館
62	熊谷守一	小菊	1956	油彩・カンヴァス	45.6×38.0	メナード美術館
63	熊谷守一	扶桑	1964	油彩・カンヴァス	41.0×32.0	メナード美術館
64	岡鹿之助	花と廢墟	1966	油彩・カンヴァス	91.0×72.7	群馬県立近代美術館
65	岡鹿之助	段丘	1978	油彩・カンヴァス	80.5×65.0	群馬県立近代美術館 (寄託作品)
66	梅原龍三郎	ばら	1973	油彩・カンヴァス	100.0×80.3	山梨県立美術館
第5章 新たな植物との関係						
67	川井昭夫	摺りガラス	1974	油彩・カンヴァス	116.7×91.0	作家蔵
68	川井昭夫	WOOD PAINTING no. 4	2001	油彩・木	65.0×25.0×7.0	作家蔵
69	川井昭夫	PHOTO PAINTING no. 1	2001	油彩・紙、 カンヴァスにマウント	18.7×18.7	作家蔵
70	川井昭夫	PHOTO PAINTING no. 5	2001	油彩・紙、 綿カンヴァスにマウント	41.0×41.0	作家蔵
71	川井昭夫	叢3	2003	油彩・FRP (グラスファイバー・ ポリエステル樹脂パネル)	3点組 各18.0×12.0×2.0	作家蔵
72	日高理恵子	野バラの実	1985	岩絵具・麻紙	68.6×90.3	野口晴男氏蔵
73	日高理恵子	山婦米	1985	岩絵具・麻紙	78.0×55.0	個人蔵
74	日高理恵子	百日紅	1986	岩絵具・麻紙	139.0×168.0	野口晴男氏蔵
75	日高理恵子	辛夷	1987	岩絵具・麻紙	120.0×120.0	学校法人 女子学院
76	日高理恵子	桜	1987	岩絵具・麻紙	120.0×240.0	学校法人 女子学院
77	日高理恵子	ツルウメモドキ	1983	鉛筆・紙	21.0×16.9	作家蔵
78	日高理恵子	ツルウメモドキ	1984	鉛筆・紙	10.4×23.8	作家蔵
79	日高理恵子	山婦来	1984	鉛筆・紙	10.9×26.4	作家蔵
80	日高理恵子	山婦米	1984	鉛筆・紙	31.2×16.9	作家蔵
81	日高理恵子	野バラの実	1984	鉛筆・紙	19.8×19.9	作家蔵
82	日高理恵子	野バラの実	1984	鉛筆・紙	22.9×29.4	作家蔵
83	水口裕務	雨上がり	1995	アクリル・カンヴァス	112.0×194.0	作家蔵
84	水口裕務	雨上がり	1996	アクリル・カンヴァス	112.0×194.0	作家蔵
85	水口裕務	蓮池	2001	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3	作家蔵
86	押江千衣子	ツツク	1997	オイルパステル、油彩・ カンヴァス	162.0×388.0	作家蔵
87	押江千衣子	あまいにおい	1999	オイルパステル、油彩・ カンヴァス	227.0×324.0	群馬県立近代美術館

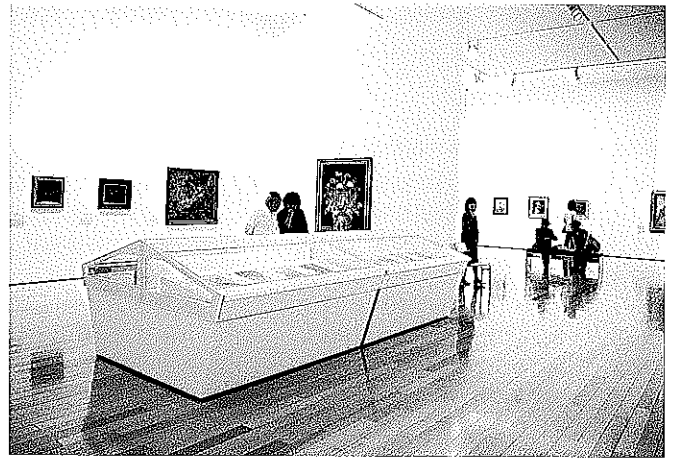
No. 作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
88 押江千衣子	フリル	2000	オイルパステル、油彩・ カンヴァス	181.8×227.3	西村画廊	
第6章 植物をあつめる—植物画・写生画						
89 五百城文哉	百花百草図	1903頃	絹本水彩・軸	147.3×86.4	栃木県立美術館	
90 五百城文哉	晃嶺群芳之図	制作年未詳	絹本水彩・軸	127.6×56.5	水戸市立博物館	
91 五百城文哉	百花屏風	制作年未詳	油彩・布・二曲一隻屏風	各151.1×153.4	水戸市立博物館	
92 五百城文哉	高山植物写生図(全97点より)	制作年未詳	水彩・紙	各約33.0×約24.5	個人蔵	☆
92-1	ヒメハナワラビ(ハナヤスリ科)		92-11	フデリンドウ(リンドウ科)		
92-2	イチリンソウ(キンボウゲ科)		92-12	ミヤマシオガマ(ゴマノハグサ科)		
92-3	チングルマ(バラ科)		92-13	コウシンソウ(タヌキモ科)		
92-4	カライトソウ(バラ科)		92-14	ハマギク(キク科)		
92-5	アサマフウロ(フクロソウ科)		92-15	カタクリ(ユリ科)		
92-6	タカネスミレ(スマイレ科)		92-16	タマガワホトトギス(ユリ科)		
92-7	ハクサンサイコ(セリ科)		92-17	クマガイソウ(ラン科)		
92-8	イワウチワ(イワウメ科)		92-18	トラキチラン(ラン科)		
92-9	オオサクラソウ(サクラソウ科)		92-19	ボウラン(ラン科)		
92-10	オヤマリンドウ(リンドウ科)		92-20	ハクサンチドリ(ラン科)		
93 辻永	植物図	1930-37	水彩・紙	各約28.0×各20.0 (*は約40.0×28.0cm **は約28.0×40.0cm)		☆
93-1	すみれ(スミレ)		93-11	麩子百合(カノコユリ)		
93-2	ふぢ(フジ)		93-12	はまぎく(ハマギク)		
93-3	(ワラビ)*		93-13	あをつづらふぢ(アオツヅラフジ)		
93-4	美女撫子(ビジョナデシコ)		93-14	こすもす(コスモス)		
93-5	(シモクレン)*		93-15	ひえ(ケイヌビエ)		
93-6	しもつけ(シモツケ)		93-16	けいとう(ケイトウ)*		
93-7	あやめ(アヤメ)		93-17	(ヤブツバキ)**		
93-8	ひもしゃぼてん(ヒモサボテン)		93-18	つるうめもどき(ツルウメモドキ)**		
93-9	つゆくさ、つきくさ、鴨趾草(ツユクサ)		93-19	(ナンテン)		
93-10	(アジサイ)		93-20	福寿草三段咲(フクジュソウ)		
・()内の植物名は参考のため記した。						
94 川崎小虎	四季野菜草花絵巻	1945- 1950	紙本着色・卷子		山梨県立美術館	☆
	第一巻			37.5×539.0		
	第二巻			37.5×516.5		
	第三巻			37.5×425.7		
	第四巻			37.5×556.0		

※「展示期間」の欄の記号は、以下を示す。

○：4月12日(土)-5月6日(火) ●：5月8日(木)-5月25日(日) ◎：4月12日(土)-4月25日(金) ☆=適宜入れ替え、場面替えをおこなう



展示室 2



展示室 4



展示室 4



展示室 4

◎印刷物・会場作成物

• 図録 B5 (26.0×19.3cm) 124頁

内容:

あいさつ (群馬県立館林美術館 館長 木島俊介)

「みどりのちから」についての追想 (木島俊介)

みどりのちから—日本近現代絵画にみる植物の表現
(徳江庸行、松下由里、中田宏明)

図版

第1章 季節の便り

第2章 植物をみつめる—大正期の細密描写を中心に

第3章 植物の変容

第4章 植物のかたち・植物のリズム—植物による画面構成

第5章 新たなる植物との関係

第6章 植物をあつめる—植物画、写生画

作家解説 (群馬県立館林美術館学芸員)

参考文献 (抄)

関連書籍

関連展覧会図録

作家関連文献

出品作品リスト

編集: 群馬県立館林美術館

デザイン: 矢萩喜從郎

制作: 株式会社キジウロウ・ヤハギ

発行: 群馬県立館林美術館

• ジュニアガイド A3、4つ折り

• ポスター B2

• ちらし A4

• パネル

挨拶パネル 2枚 (館長挨拶和文、英文)

章解説パネル 8枚

◎主要関連記事 (長文記事は末尾に*)

[新聞等]

• 朝日新聞

4.12 「みどりのちから」〈ぐんまマリオン ミュージアム〉

4.19 「群馬県立館林美術館 みどりのちから」〈ぐんま
マリオン 沿線美術館情報〉

• 産経新聞

4.10、4.17、4.24、5.8、5.15、5.22

「みどりのちから」〈アートカレンダー〉

4.17 「みどりのちから」日本近現代絵画にみる植物の表現
〈ぐんぐんぐんま ミュージアム ギャラリー〉

• 下野新聞

4.3 「群馬県立館林美術館 みどりのちから—日本近現代
絵画にみる植物の表現」〈展示館だより〉

• 上毛新聞

4.4 「みどりのちから—日本近現代絵画に見る植物の表現」
〈気になる情報 ぱれっと 県内美術館・博物館〉

4.6 「館林美術館企画展「みどりのちから—日本近現代絵

画にみる植物の表現—」ワークショップ」〈ゆうまぢ
ゃんの掲示板〉

4.10 「館林美術館企画展「みどりのちから—日本近現代絵
画にみる植物の表現—」〈ゆうまぢゃんの掲示板〉

4.13 「館林美術館企画展「みどりのちから—日本近現代絵
画における植物の表現—」記念講演会」〈ゆうまぢゃ
んの掲示板〉

4.16 「館林美術館企画展「みどりのちから—日本近現代絵
画にみる植物の表現—」作品解説会」〈ゆうまぢゃ
んの掲示板〉

4.16 「近現代の植物画 多彩に 県立館林美術館 来月25日
まで企画展」*

4.18、5.9

「県立館林美術館「みどりのちから—日本近現代絵画
にみる植物の表現」」〈気になる情報 ぱれっと 県
内美術館・博物館〉

5.1 「祖父所有の植物画 赴任先館林で初の対面 県立美
術館企画展東京の久留島さん「不思議な縁感慨深い」*

5.14 「館林美術館企画展「みどりのちから—日本近現代絵
画にみる植物の表現」作品解説会」

5.27 「植物デッサンを学ぶ 県立館林美術館 ワークショ
ップに20人」*

• 上毛新聞シャトル (館林ニュース)

3.28、4.4、4.7、4.11、4.14、4.18、4.21、4.25、5.5、
5.9、5.12、5.16、5.19、5.26

「企画展「みどりのちから—日本近現代絵画にみる
植物の表現」」〈出かけてみませんか 情報BOX〉

4.6、4.20、5.18

「県立館林美術館「みどりのちから」」〈museum
館林市〉

4.14 「企画展「みどりのちから」記念講演会「植物学と植
物画」「ワークショップ」〈出かけてみませんか 情
報BOX〉

4.18 「企画展「みどりのちから—日本近現代絵画にみる植
物の表現」」「企画展示「みどりのちから」記念講演
会「植物学と植物画」」「ワークショップ」〈出かけ
てみませんか 情報BOX〉

4.20 「絵画展「みどりのちから」 有名画家による近現代
の植物画 来月25日まで館林美術館」*

4.25 「企画展「みどりのちから—日本近代絵画にみる植物
の表現」」「ワークショップ」〈出かけてみませんか
情報BOX〉

5.18 「県立館林美術館「みどりのちから」」〈museum
館林市〉

• 東京新聞

4.9 「みどりのちから」〈ウィークリー★ぐんま 展覧会〉

4.10、5.8 「群馬県立館林美術館 みどりのちから」
〈ゆめ・ぼっけ 美術館、博物館〉

• 日本経済新聞

4.11、5.9

「みどりのちから—日本近現代絵画にみる植物の表

現」〈文化イベント〉

- 北陸中日新聞
- 5.18 「自然を見る眼差し みどりのちから展 川井昭夫さんの近作 群馬・館林美術館」*
- 毎日新聞
- 4.4 「館林市・館林美術館企画展「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現ー」〈ぐんま ワイド〉
- 4.16、4.23、4.30、5.7、5.14
「館林美術館（館林市）「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現」〈Gallery 見る 群馬のミュージアム〉
- 読売新聞
- 4.4 「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現」〈イベントガイド群馬 ギャラリー〉
- 4.11 「企画展示「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現」記念講演会」〈イベントガイド群馬 ギャラリー〉
- 群馬よみうり あみーご
- 4.19 「館林 みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現ー」

[定期刊行物]

- 足利漫我人
- 4、5月号「企画展示「みどりのちから」」〈県立館林美術館情報〉
- 楽SAI
- 5月号「企画展「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現ー」」〈群馬県内施設イベント情報〉
- からっ風
- 6月号「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現」〈美術館〉
- ギャラリー
- 4月号「近現代の植物画を公開「みどりのちからー日本近現代植物の表現ー」」
- 5月号「みどりのちからー日本近現代植物の表現ー」〈美術館〉
- 教育ぐんま
- 399号 3月号 「みどりのちから 日本近現代絵画にみる植物の表現」〈平成15年度 県立美術館・博物館による教職員のための展示解説会について〉
- グラフぐんま
- 5月号「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現」*〈gallery〉
- ぐんま広報
- No.167 4月号 「県立館林美術館 企画展 みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現」
- 広報めいわ
- No.55 4月号 「館林美術館企画展示」〈くらしの情報〉
- 広報めぬま
- 4月号「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現ー」〈もよおし〉

- すたんぴーど
- 6月号 「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現ー」〈Monthly Art〉
- ぼんぼこキッズ
- 第12号 3月～6月号 「みどりのちからー日本近現代絵画にみる植物の表現ー」〈いろいろ通信〉
- マイ・リトルタウン
- 4、5月号 「「みどりのちから」日本近現代絵画にみる植物の表現」〈EVENT GUIDE〉
- 渡良瀬通信
- 4、5月号 「みどりのちから 日本近現代絵画にみる植物の表現」〈美術館〉
- Otome
- 5月号「企画展 みどりのちから」〈県の情報 東毛〉

◎放送

[ラジオ]

- FMぐんま
- 4.12 〈ぐんま21（取材）〉
- 4.15 〈ぐんま情報トッピング〉
- 4.15 〈FM県政ガイド〉
- FM TARO
- 〈ぐんまいきいき情報〉
- NHKラジオ第1
- 4.18 〈ラジオあさいちばん〉

◎関連事業

- 記念講演会「植物学と植物画」
- 4.20 講師：大場秀章氏（東京大学総合研究博物館教授）
- ワークショップ「みどりと出会う」 対象：小学生～一般
- 4.26、27 講師：押江千衣子氏（出品作家）
- ワークショップ「ボタニカル・アート（植物細密画）に挑戦」
- 5.24 講師：豊田路子氏（植物画家）
- 対象：高校生～一般
- 5.25 講師：豊田路子氏（植物画家）
- 対象：小中学生

2. 親子のための美術展 動物、アートとなる

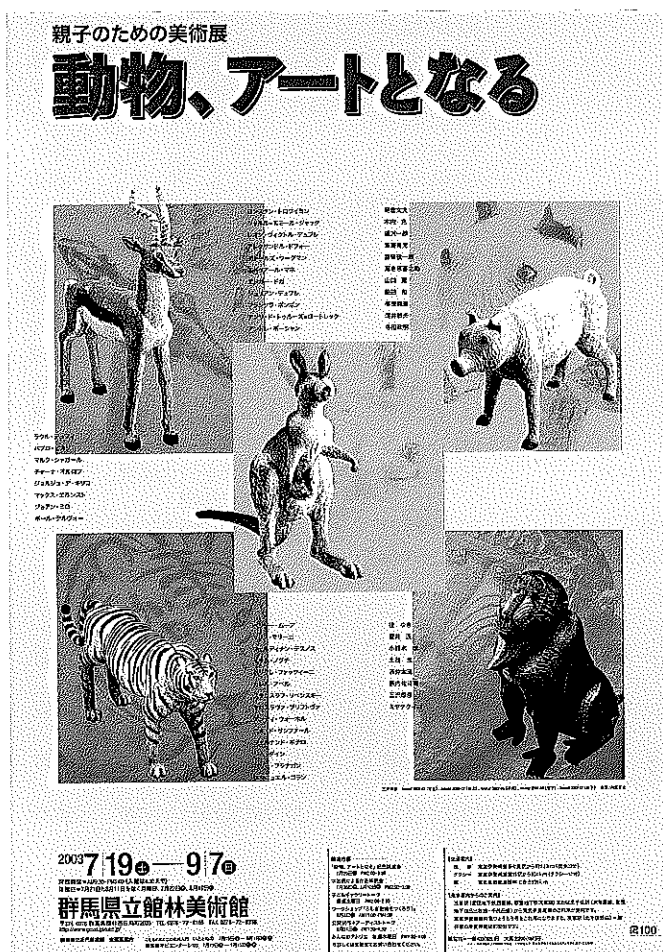
会期 平成15年7月19日(土)～9月7日(日)
 会場 展示室1、2、3、4
 主催 群馬県立館林美術館
 観覧料 一般400(320)円、大高生200(160)円
 () 内は20名以上の団体割引料金

原始時代から表されてきた豊かな動物表現の中から、特に近現代の西洋絵画、日本の洋画、彫刻作品に焦点をあて、全109点を5章に分け展示した。

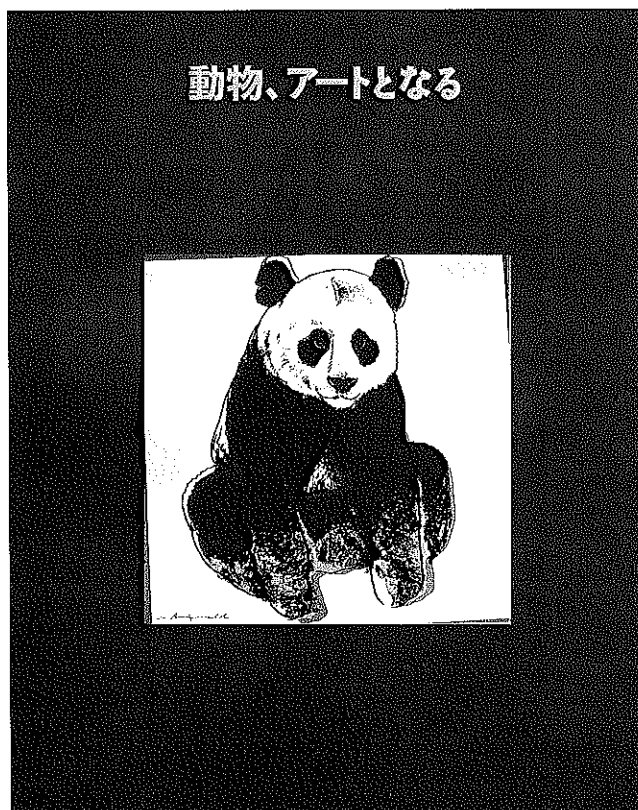
第1章「くらしとまつりー人間と動物のかかわり」では、風景表現とともに牧畜や農業に従事する人間と動物の姿を写実的にとらえたバルビゾン派の画家たちのなかから、とりわけ動物画を得意としたコンスタン・トロワイヨン、シャルル=エミール・ジャック、アレクサンドル・ドフォーなどの作品を紹介した。また、闘牛、競馬、サーカスなど、祝祭的場での動物を表したピカソなどの作品も紹介した。第2章「まなざしー主役となった動物たち」では、彫刻作品を中

心に、飼い慣らされた動物たちを表現した1900年代以降の作品を、第3章「あつめる心ー博物誌の世界」では、デュフィ、エルンスト、ピカソ、ムーアによる動物をテーマとした版画集を展示した。第4章「ゆめー画家の想像力」では、幻想的な視点、またはシュルレアリスムの視点から動物を捉えた作品群を展示し、第5章「メッセージー現代作家より」では、1980年代以降の現代美術作品を中心に紹介した。第5章に含まれる、ミヤタケイコ氏と三沢厚彦氏による作品を展示室1に展示し、他の作品は展示室2から4にかけて、ほぼ章立てに従って展示した。

出品作家、三沢厚彦氏による公開制作では、チェーンソーで木を削りながら作品を制作して行く過程を実際に見ることができた。同じく出品作家であるミヤタケイコ氏を講師としたワークショップも行い、好評を得た。創作体験コーナー「みんなのアトリエ」では、カラーねんどを使って小さな動物を造った。



ポスター



図録

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
第1章 暮らしとまつりー人間と動物のかかわり							
1	コンスタン・トロワイヨン	風景	1850年頃	油彩・板	25.0×45.0	群馬県立近代美術館	
2	コンスタン・トロワイヨン	河辺の道	1860-65	油彩・カンヴァス	72.5×92.6	千葉県立美術館	
3	シャルル=エミール・ジャック	森の中	1871	油彩・カンヴァス	76.8×65.3	千葉県立美術館	
4	レオン・ヴィクトル・デュブレ	水辺の牛	1866	油彩・カンヴァス	53.0×84.0	村内美術館	
5	アレクサンドル・ドフォー	納屋の中の羊と鶏	1870年代後半	油彩・カンヴァス	61.0×91.5	山梨県立美術館	
6	エドゥアール・マネ	競馬場	1865-72年頃	リトグラフ・紙	43.0×54.5	馬の博物館	
7	チャールズ・ワーグマン	鳥	未詳	油彩・板	32.0×41.0	栃木県立美術館	
8	エドガー・ドガ	前肢を上げる馬	未詳	ブロンズ	18.0×27.3×6.3	馬の博物館	
9	ジュリアン・デュブレ	羊飼ひ	1883	油彩・カンヴァス	148.0×207.0	新潟県立近代美術館・ 万代島美術館	
10	アンリ・ド・トゥールーズ=ロトレック	馬上の二人の兵士	1881	油彩・板	23.5×14.0	おかざき世界子ども 美術博物館	
11	アンリ・ド・トゥールーズ=ロトレック	騎手	1899	リトグラフ・紙	49.7×34.0	馬の博物館	前期
12	パブロ・ピカソ	ベベ・イーリョ 『闘牛技』(全27点より)	1957(1959年刊)	アクアチント・紙		群馬県立館林美術館	
12-1		5 ドン・タンクレドの呼 び込み			19.4×29.0		前期
12-2		6 牛舎から出る牡牛			19.6×29.2		前期
12-3		12 牡牛に犬をけしかける			19.4×29.0		前期
12-4		15 バンデリリヤを突き刺す			19.4×29.0		後期
12-5		21 とどめの突き			19.4×29.0		後期
12-6		27 牡牛を槍で突く			19.6×29.2		後期
13	マルク・シャガール	サーカス(全38点より)	1967	リトグラフ・紙		群馬県立近代美術館	
13-1		1 扉絵			42.0×32.0		前期
13-2		4 赤い服の女曲馬師			42.0×32.0		後期
13-3		9 大きな道化師			42.0×32.0		後期
13-4		15 猛獣使い			42.0×32.0		前期
13-5		17 猛獣たち			42.0×64.0		後期
13-6		21 馬たち			42.0×64.0		前期
14	ヘンリー・ムーア	後ろ足で立つ馬	1972	ブロンズ	20.0×9.0×7.0	群馬県立館林美術館	
15	ヘンリー・ムーア	羊連作(全16点より)	1975年刊	エッチング ドライポイント・紙		群馬県立近代美術館	
15-1		羊の親子I	1972		14.4×20.5		前期
15-2		羊の親子IV	1972		14.4×20.5		後期
15-3		羊の頭	1974		18.6×25.1		前期
15-4		刈りとりを待つ羊	1974		20.3×24.7		後期
15-5		刈られた羊	1974		18.6×25.0		前期
15-6		刈られた親羊と子羊	1974		18.0×23.5		後期
16	マリノ・マリニ	騎手のための構想、習作	1955	ブロンズ	56×23×34.8	新潟県立近代美術館・ 万代島美術館	
17	鳥海青児	サーカスの馬	1954	油彩・カンヴァス	79.7×65.0	平塚市美術館	
18	海老原喜之助	蹄	1936	油彩・カンヴァス	111.2×144.7	目黒区美術館	
第2章 まなごしー主役となった動物たち							
19	フランソワ・ボンボン	羽根をむしられて 駆け回る雄鶏	1910	インク・紙	15.0×17.0	群馬県立館林美術館	前期
20	フランソワ・ボンボン	羽根をむしられて 駆け回る雄鶏	1910	インク・紙	21.5×10.0	群馬県立館林美術館	後期
21	フランソワ・ボンボン	二羽の雌雄	未詳	鉛筆・グワッシュ インク・紙	27.0×45.0	群馬県立館林美術館	前期
22	フランソワ・ボンボン	2つの姿勢の雌雄	未詳	インク グワッシュ・紙	32.4×17.0	群馬県立館林美術館	後期
23	フランソワ・ボンボン	ラクダ	1906-30	ブロンズ	15.6×23.0×6.0	群馬県立館林美術館	
24	フランソワ・ボンボン	風見鶏	1908-32	銅	47.0×54.4×6.0	群馬県立館林美術館	
25	フランソワ・ボンボン	ほろほろ鳥	1910-12	ブロンズ	19.8×23.4×10.7	群馬県立館林美術館	
26	フランソワ・ボンボン	牝豚	1918-25	ブロンズ	11.0×20.0×5.5	群馬県立館林美術館	
27	フランソワ・ボンボン	ヒグマ	1918-26	ブロンズ	9.2×15.8×7.0	群馬県立館林美術館	

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
28	フランソワ・ボンボン	雉鳩	1919	ブロンズ	24.0×8.7×9.5	群馬県立館林美術館	
29	フランソワ・ボンボン	フクロウ	1923	ブロンズ	17.7×7.9×8.2	群馬県立館林美術館	
30	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923-33	白色大理石	23.6×47.2×13.4	群馬県立館林美術館	
31	フランソワ・ボンボン	猪	1925-29	石膏	22.8×37.1×10.0	群馬県立館林美術館	
32	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1926	ブロンズ	12.0×23.5×5.0	群馬県立館林美術館	
33	フランソワ・ボンボン	立って頭を下げている インドの牝鹿	1927-28	ブロンズ	12.5×20.8×8.0	群馬県立館林美術館	
34	フランソワ・ボンボン	オラン・ウータン (頭部)	1930	石膏	34.3×23.0×20.0	群馬県立館林美術館	
35	フランソワ・ボンボン	大黒豹	1930-31	ブロンズ	25.0×81.0×14.0	群馬県立館林美術館	
36	ペリクレ・ファッツィーニ	猫	1946	ブロンズ	37.5×82.2×29.5	世田谷美術館	
37	朝倉文夫	兎の群	1931	ブロンズ	24.5×41.0×29.5	台東区立朝倉彫塑館	
38	朝倉文夫	愛猫病めり	1958	ブロンズ	34.5×20.0×46.0	台東区立朝倉彫塑館	
39	木内克	猫	1965	テラコッタ	22.0×40.0×48.0	茨城県近代美術館寄託	
40	木内克	自刻像(生活)	1968	テラコッタ	78.0×29.0×32.0	茨城県近代美術館	
41	猪熊弦一郎	猫と二人の子供	1952	油彩・カンヴァス	90.7×72.5	群馬県立館林美術館	
42	猪熊弦一郎	猫と魚	1953-54	油彩・カンヴァス	60.5×50.0	群馬県立館林美術館	
43	山口薫	花子誕生	1951	油彩・カンヴァス	100.0×80.0	群馬県立近代美術館	
44	脇田和	午睡	1959	油彩・カンヴァス	72.7×90.9	群馬県立近代美術館	
45	脇田和	対話する鳥たち	1972	油彩・カンヴァス	116.7×91.0	世田谷美術館	
46	柳原義達	道標・鳩	1973	ブロンズ	43.0×52.0×28.0	和歌山県立近代美術館	
47	柳原義達	道標・鳩	1978	ブロンズ	56.0×66.0×32.0	和歌山県立近代美術館	
48	淀井敏夫	聖マントヒヒ	1966	ブロンズ	42.0×60.0×34.0	個人蔵	
49	淀井敏夫	脚をのばした幼いキリン	1993	ブロンズ	47.5×47.0×40.0	あさご芸術の森美術館 淀井敏夫記念館	
50	桂ゆき	親亀の背中に子亀を のせて	1970	油彩、紙・板	130.3×89.2	福島県立美術館	
51	菅井汲	牛	1953	油彩・カンヴァス	81.0×54.0	東京都現代美術館	
52	菅井汲	犬、魚、鳥	1953	油彩・カンヴァス	81.0×60.0	東京都現代美術館	
第3章 あつめる心ー博物誌の世界							
53	ラウル・デュフィ	アポリネール『動物詩集 あるいはオルフェウスの お供たち』(全32点より)	1911	木版・紙		群馬県立館林美術館	
53-1		3 馬			20.6×19.6		前期
53-2		4 チベットの山羊			20.4×19.5		後期
53-3		7 ライオン			20.6×19.2		
53-4		9 家ウサギ			20.3×19.3		後期
53-5		11 ハツカネズミ			21.0×19.2		前期
53-6		12 象			21.0×19.2		前期
53-7		19 イルカ			20.4×19.5		後期
53-8		20 タコ			20.2×19.4		前期
53-9		21 クラゲ			20.3×19.4		後期
53-10		26 白鳩			20.3×19.4		前期
53-11		27 クジャク			20.4×19.0		後期
53-12		28 ミミズク			20.4×19.4		前期
53-13		30 牡牛			20.0×19.0		後期
54	パブロ・ピカソ	ビュフォン『博物誌』 (全31点より)	1942	アクアチント・エッ チング・ドライボイ ント・紙		群馬県立館林美術館	
54-1		1 馬			27.0×21.0		前期
54-2		4 雄牛			27.0×23.0		後期
54-3		5 雄羊			27.0×22.0		前期
54-4		6 猫			26.8×21.6		後期
54-5		12 猿			28.0×22.4		前期
54-6		14 ハゲタカ			27.4×21.6		後期
54-7		18 母雌鶏			27.0×21.0		前期
54-8		28 トカゲ			26.8×21.0		後期

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
55	マックス・エルンスト	博物誌 (全34点より)	1926	コロタイプ・紙		富岡市立美術博物館・ 福沢一郎記念美術館	
55-1		24 14歳未満の稲妻			43.0×26.0		前期
55-2		25 ダイヤモンド婚			43.0×25.2		後期
55-3		26 振子の起源			43.0×26.3		前期
55-4		27 スフィンクスの 馬小屋の中			26.0×43.0		後期
55-5		28 死の食事			25.8×43.0		前期
55-6		29 光の車輪			26.2×43.3		後期
55-7		30 脱走者			26.0×42.6		前期
55-8		31 太陽の貨幣制度			40.4×26.0		後期
55-9		32 どんな忘却も			26.3×43.0		前期
55-10		33 種馬と風の婚約者			26.0×42.8		後期
56	ヘンリー・ムーア	動物園の動物たち (全13点より)	1981-82 (1983年刊)	エッチング・紙		群馬県立館林美術館	
56-1		1 象			10.0×12.5		前期
56-2		3 サイ			10.0×12.5		後期
56-3		4 サイ			21.6×27.9		前期
56-4		5 ラクダ			21.2×27.8		前期
56-5		6 ハゲタカ			21.2×27.8		後期
56-6		7 象			21.2×27.8		後期
56-7		8 豹			25.0×19.5		前期
56-8		9 シマウマ			21.2×27.8		後期
56-9		10 野牛			21.2×27.6		前期
56-10		11 ジャガー			21.3×27.8		後期
56-11		12 レイヨウ			21.2×27.8		後期
56-12		13 トラ			19.2×24.0		前期
第4章 ゆめ—画家の想像力							
57	アンドレ・ポーシャン	聖アントワーヌの誘惑	1947	油彩・カンヴァス	81.0×100.3	世田谷美術館	
58	マルク・シャガール	寓話 (全100点より)	1927-30 (1952年刊)	エッチング・ドライ ポイント・アクアチ ント・手彩色・紙		群馬県立近代美術館	
58-1		1 カラスとキツネ			29.0×24.6		前期
58-2		2 ウシと同じくらい大 きくなりたいと思っ たカエル			29.5×23.5		後期
58-3		19 海綿を背負ったロバ と塩を背負ったロバ			30.0×24.5		後期
58-4		21 ウサギとカエル			29.4×23.9		前期
58-5		22 オンドリとキツネ			28.6×24.6		後期
58-6		24 ジュノンに不平を言う クジャク			29.6×24.0		前期
58-7		85 ネズミとゾウ			29.1×24.0		後期
58-8		98 二匹の靴ヤギ			29.0×23.7		前期
59	ジョルジオ・デ・キリコ	大きな馬	1988	ブロンズ	75.0×68.0×45.0	群馬県立館林美術館	
60	マックス・エルンスト	外壁のマスク	1948	ブロンズ	23.8×38.6×19.2	群馬県立館林美術館	
61	ジョアン・ミロ	鳥	1970	ブロンズ	60.7×40.7×40.7	群馬県立館林美術館	
62	ポール・デルヴォー	水のニンフ (セイレン)	1937	油彩・カンヴァス	103.0×120.0	姫路市立美術館	
63	フェルディナン・デスノス	ノアの方舟の建造	1950	油彩・イゾレル	73.0×92.0	世田谷美術館	
64	福沢一郎	ノアの方舟の出来事	1991	アクリル カンヴァス	193.0×259.1	富岡市立美術博物館・ 福沢一郎記念美術館	
65	寺田政明	灯の中の相談	1950	油彩・カンヴァス	91.0×72.7	新潟市美術館	
66	小野木学	ユニコオーン	1961	油彩・カンヴァス	162.1×130.3	練馬区立美術館	
第5章 メッセージ—現代作家より							
67	チャーナ・オルロフ	鳥	1924	ブロンズ	100.5×32.2×30.0	群馬県立館林美術館	
68	イサム・ノグチ	リス	1984-88	ブロンズ板	61.0×48.0×39.0	群馬県立館林美術館	

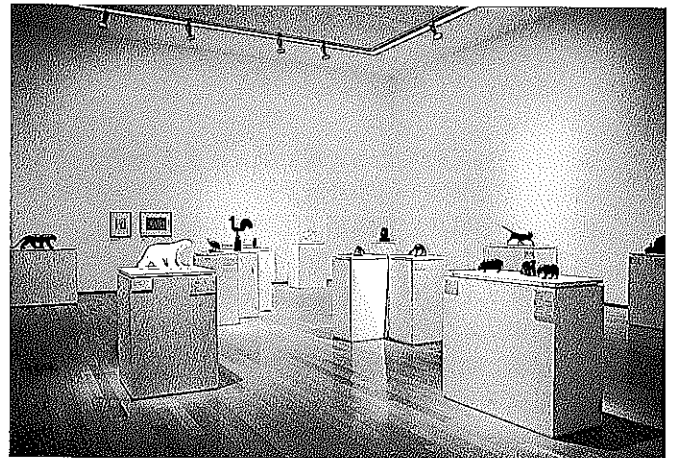
No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
69	カレル・アペル	飛ぶ魚	1977	アクリル・木	53.3×80.0×18.0	群馬県立館林美術館	
70	カレル・アペル	サーカス・シリーズ： 鳥の道化	1978	アクリル・木	83.8×89.0×18.0	群馬県立館林美術館	
71	スタニスラフ・リベンスキー ヤロスラヴァ・プリフトヴァ	鳥	1997	ガラス	72.0×123.0×25.0	群馬県立館林美術館	
72	アンディ・ウォーホル	危機に瀕した種 (全10点)	1983	シルクスクリーン・ 紙		群馬県立館林美術館	
72-1		1 アフリカ象			96.5×96.7		
72-2		2 白頭ワシ			96.5×96.7		
72-3		3 ロッキー羊			96.5×96.7		
72-4		4 クロサイ			96.5×96.7		
72-5		5 ジャイアントパンダ			96.5×96.7		
72-6		6 グレーヴィーシマウマ			96.5×96.7		
72-7		7 オランウータン			96.5×96.7		
72-8		8 アンダーソンアマガエル			96.5×96.7		
72-9		9 サンフランシスコ・ シルバースポット			96.5×96.7		
72-10		10 シベリアタイガー					
73	ニキ・ド・サンファール	鏡	1980	ポリエステル・鏡	104.0×152.0× 12.5	いわき市立美術館	
74	フェルナンド・ボテロ	馬	1995	ブロンズ	50.4×38.0×26.6	群馬県立館林美術館	
75	ジム・ダイン	キング・パロット	1995	ブロンズ	216.0×122.0× 112.0	群馬県立館林美術館	
76	バリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5×104.1× 62.2	群馬県立館林美術館	
77	エマニュエル・コラン	ジュゴン	1991	着色・縦・ポブラ ブナ	30.0×140.0×55.0	群馬県立館林美術館	
78	エマニュエル・コラン	大きなアザラシ	1991	着色・縦・ポブラ ブナ	38.0×180.0×90.0	群馬県立館林美術館	
79	止谷武	蝶 I	1993/98年 改作	軟鋼	147.0×130.0× 160.0	群馬県立館林美術館	
80	吉仲太造	地球人	1956	油彩・カンヴァス	182.0×228.0	東京都現代美術館	
81	籾内佐斗司	犬モオケバ...	1987	漆・木	各57.7×89.0×27.2	兵庫県立美術館	
82	三沢厚彦	Head 2000-02	2000	アクリル・油彩 ヒバ	16.0×17.5×19.0	西村画廊	
83	三沢厚彦	Head 2000-05	2000	アクリル・楠	16.5×16.0×17.5	西村画廊	
84	三沢厚彦	Head 2000-08	2000	アクリル・ヒバ	59.0×26.5×16.5	西村画廊	
85	三沢厚彦	Head 2000-17	2000	アクリル・ヒバ	15.0×12.0×13.5	西村画廊	
86	三沢厚彦	Head 2000-20	2000	油彩・楠	14.0×10.3×14.0	作家蔵	
87	三沢厚彦	Dog 2000-03	2000	油彩・楠	69.0×30.0×82.0	作家蔵	
88	三沢厚彦	Head 2001-11	2001	アクリル・ヒバ	14.5×17.0×19.5	西村画廊	
89	三沢厚彦	Head 2001-12	2001	アクリル・楠	27.0×12.0×12.0	西村画廊	
90	三沢厚彦	Dog 2001-09	2001	油彩・楠	84.0×29.5×100.5	個人蔵	
91	三沢厚彦	Animal 2001-02	2001	油彩・楠	165.0×43.0× 132.0	作家蔵	
92	三沢厚彦	Animal 2001-03	2001	油彩・楠	93.0×48.0×207.0	作家蔵	
93	三沢厚彦	Animal 2002-02	2002	油彩・楠	51.0×32.0×88.0	個人蔵	
94	三沢厚彦	Animal 2002-06	2002	油彩・楠	101.0×43.0× 140.0	西村画廊	
95	三沢厚彦	Animal 2002-07	2002	油彩・楠	93.5×59.5×81.5	浅野浩氏蔵	
96	三沢厚彦	Animal 2002-10	2002	油彩・楠	67.0×22.0×29.0	個人蔵	
97	三沢厚彦	Cat 2003-01	2003	油彩・楠	49.0×26.0×31.0	西村画廊	
98	三沢厚彦	Cat 2003-02	2003	油彩・楠	39.0×15.0×94.0	個人蔵	
99	三沢厚彦	Dog 2003-01	2003	油彩・楠	46.0×22.0×34.5	西村画廊	
100	三沢厚彦	Dog 2003-02	2003	油彩・楠	52.5×23.0×68.0	西村画廊	
101	三沢厚彦	Animal 2003-02	2003	油彩・アクリル 色鉛筆・楠	3.5×9.5×23.2	西村画廊	

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
102	ミヤタケイコ	Little blue bird	2001	フェイクファー ペレット・布 カラスチロール 綿ほか	30.0×40.0×30.0	北見和義氏蔵	
103	ミヤタケイコ	Little green bird	2001	フェイクファー ペレット・布 カラスチロール 綿ほか	30.0×40.0×30.0	作家蔵	
104	ミヤタケイコ	BLACK BOX	2002	フェイクファー フェルト・ワイヤー エアピロ・エアキャッ プほか	300.0×300.0× 350.0	作家蔵	
105	ミヤタケイコ	RED BOX	200	フェイクファー エアピロ・エアボール スチレンボード・エナ メルレザーほか	300.0×90.0×70.0	作家蔵	
106	ミヤタケイコ	TRASH BEAR (RED)	2003	布・フェルト エナメル合皮・金属 片・指輪・ボタン 毛皮・ペレット・皮 革・フェイクファー ほか	35.0×30.0×29.0	作家蔵	
107	ミヤタケイコ	TRASH BEAR (GREEN)	2003	布・フェルト エナメル合皮・ガラ ス・金属片・モヘア ボタン・ペレット 皮革・フェイク ファーほか	35.0×30.0×29.0	作家蔵	
108	ミヤタケイコ	TRASH BEAR (BLACK)	2003	布・フェルト エナメル合皮・金属 片・時計の残骸・ボタ ン・毛皮・ペレット 皮革・フェイク ファー・ガラスほか	35.0×30.0×29.0	個人蔵	
109	ミヤタケイコ	TRASH BEAR (WHITE)	2003	布・フェルト エナメル合皮・金属 片・ボタン・毛皮・ペ レット・皮革・フェイ クファー・ファスナー ほか	35.0×30.0×29.0	個人蔵	

※展示期間 前期: 7月19日(土)-8月17日(日) 後期: 8月20日(水)-9月7日(日)



展示室 1



展示室 2



展示室 3



展示室 4

◎印刷物・会場作成物

- 図録 A5変形 (21.5×17.3cm) 72頁

内容：はじめに

動物についてのちょっと怖い話ーメタモルフォシスの意識とアニマルー (木島俊介)

図版 (作品解説：群馬県立館林美術館学芸員)

- 第1章 くらしとまつり
- 第2章 まなざしー主役となった動物たち
- 第3章 あつめる心ー博物誌の世界
- 第4章 ゆめー画家の創造力
- 第5章 メッセージー現代作家より

作家解説 (群馬県立館林美術館学芸員)

参考文献 (抄)

関連書籍・雑誌 (動物をテーマとしたもの)

関連展覧会 (動物表現をテーマとしたもの、または動物が重要なモチーフとして登場するもの)

作家関連書籍・カタログ (動物をテーマとしたもの)

博物誌関連書籍

出品作品リスト

編集：群馬県立館林美術館

制作：印象社

発行：群馬県立館林美術館

- ジュニアガイド A3、4つ折り
- ポスター B2
- ちらし A4
- パネル
挨拶パネル 2枚 (館長挨拶和文、英文)
章解説パネル 5枚
- 会場配布用作品リスト

◎主要関連記事 (長文記事は末尾に*)

[新聞等]

- 朝日新聞
- 8.16 「動物、アートとなる」* <ぐんまマリオン 夏休みアート・芸能特集 美術館・博物館>
- 8.30 「親子のための美術展 動物、アートとなる」 <ぐんまマリオン ミュージアム>
- 朝日ぐんま
- 8.29 「創作体験 9月4日・館林市」 <レジャー 東毛>
- おおたタイムス
- 7.5 「動物描いた百点 館林美術館で」*
- 産経新聞
- 7.17 「親子のための美術展 動物、アートとなる」* <ぐん ぐん ぐんま>
- 上毛新聞
- 7.9 「館林美術館「親子のための美術展 動物、アートとなる」展記念講演会」 <ゆうまちゃんの掲示板>
- 7.16 「館林美術館「親子のための美術展 動物、アートとなる」展 子どもギャラリートーク」 <ゆうまちゃん

の掲示板>

- 7.18 「館林美術館「親子のための美術展 動物、アートとなる」展」* <ゆうまちゃんの掲示板>
- 7.19 「木島館長講演会参加者を募集 あす県立館林美術館」
- 7.21 「高崎市タワー美術館 県立館林美術館 動物めぐる企画展」* <ぶんか>
- 7.23 「館林美術館「みんなのアトリエ」で創作体験！」 <ゆうまちゃんの掲示板>
- 7.29 「「館林美術館「親子のための美術展 動物、アートとなる」展作品解説会」 <ゆうまちゃんの掲示板>
- 8.1 「Animal 2002-06」* <気になる情報 ぱれっと 県内美術館・博物館>
- 8.4 「「不思議な動物」かわいいー県立館林美術館 布使い児童ら制作」* <東毛>
- 8.4 「「アートな夏休み」* <スコープ>
- 8.8 「館林美術館「親子のための美術展 動物、アートとなる」展子どもギャラリートーク」 <ゆうまちゃんの掲示板>
- 8.22 「県立美術館・博物館親子のための美術展 動物、アートとなる」 <気になる情報 ぱれっと 県内美術館・博物館>
- 8.23 「館林美術館「親子のための美術展 動物、アートとなる」展」
- 8.23 「粘土で動物作り 粘土で動物作り 館林 親子50人が熱中」*
- 8.25 「プロの腕にくぎ付け 造形作家が公開制作 館林美術館」*
- 8.27、8.28 「館林美術館「みんなのアトリエ」創作体験！」 <ゆうまちゃんの掲示板>
- 9.3 「館林美術館「親子のための美術展 動物、アートとなる」展子どもギャラリートーク」 <ゆうまちゃんの掲示板>
- 上毛新聞シャトル (館林ニュース)
- 6.30、7.4、7.11、7.18
「動物、アートとなる」展記念講演会 <出かけてみませんか 情報BOX>
- 7.7、7.11、7.18、7.21、7.25、7.28、8.1、8.4、8.8、8.12、8.15、8.18、8.22、8.25、8.29、9.5
「親子のための美術展 動物、アートとなる」 <出かけてみませんか 情報BOX>
- 7.13 「動物、アートとなる」 <museum>
- 7.25、7.28、8.1
「ワークショップ ふしぎ動物をつくろう！」 <出かけてみませんか 情報BOX>
- 7.26 「息遣い感じて 国内外の絵画や彫刻ずらり100点 生き生き」*
- 7.27、8.10
「親子のための美術展 動物、アートとなる」 <museum>
- 8.12、8.15、8.18、8.22、8.25
「公開制作+アーティストトーク 動物の彫刻が生ま

れるまで」〈出かけてみませんか 情報BOX〉
8.26 「動物の彫刻が生まれるまで 迫力に感動 県立館林美術館 公開制作+トーク 造形作家 三沢厚彦さん 技術と感性 35人を魅了」*

• 館林タイムス
7.19 「動物、アートとなる」 館林美術館」*

• 東京新聞
8.12 「動物、アートとなる」〈群馬 お楽しみ ウィークリー 展覧会〉

8.14、8.28
「親子のための美術展 動物、アートとなる」〈ゆめ・ぼっけ 美術館、博物館〉

• まいにち
8.12 「親子のための美術展 動物、アートとなる」〈イベント・インフォメーション〉

• 毎日新聞
7.23、7.30
「動物、アートとなる」〈見る 聞く 遊ぶ 群馬〉

8.13 「親子のための美術展 動物、アートとなる」〈Gallery 見る ミュージアム〉

8.27 「ユーモアたっぷり 動物、アートとなる」* 〈Gallery 見る ミュージアム〉

• 読売新聞
7.18 「親子のための美術展 「動物、アートとなる」* 〈イベントガイド 群馬 ギャラリー〉

• 群馬よみうり あみーご
7.12 「親子のための美術展 動物、アートとなる」* 〈県内美・博物館〉

[定期刊行物]

• 足利漫画人
8月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」*

• 楽SAI
8月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」

• からっ風
7、8月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」*

• ギャラリー
8月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」*

• 教育ぐんま
3、7月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」

• 広報そうわ
7月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」

• 広報めいわ
7月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」

• 広報めぬま
7月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」

• 上毛でりじえい
7.24、7.28
「親子のための美術展 動物、アートとなる」*

• 書道界
8月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」*

• すたんぴーど
8月 「動物、アートとなる 怖い?カワイイ?純粋な動物たちの姿」

• 美術手帖
8月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」

• 美術の窓
8月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」*

• マイ・リトル・タウン
7月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」*

• Otome
9月 「親子のための美術展 動物、アートとなる」

◎放送

[テレビ]

• 群馬テレビ
7.30、8.11 〈県政ガイド (出演版)〉

• NHK教育テレビ
8.31 9:45-10:00/20:45-21:00 〈新日曜美術館 (アートシーン)〉

• NHK総合テレビ
9.1 〈こんにちは いっと6けん〉

• NHK総合テレビ
9.1 〈こんにちは いっと6けん〉

[ラジオ]

• FMぐんま
8.13 10:45-11:00 〈ぐんま情報トッピング〉

8.13 17:47-51 〈エフエム県政ガイド〉

• FM TARO
8.1 8:20-25 〈ぐんまいきいき情報〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

• NHK FM
9.1 〈夕焼けほっと群馬〉

3. フィンランドの美術 神話が息づく自然の国

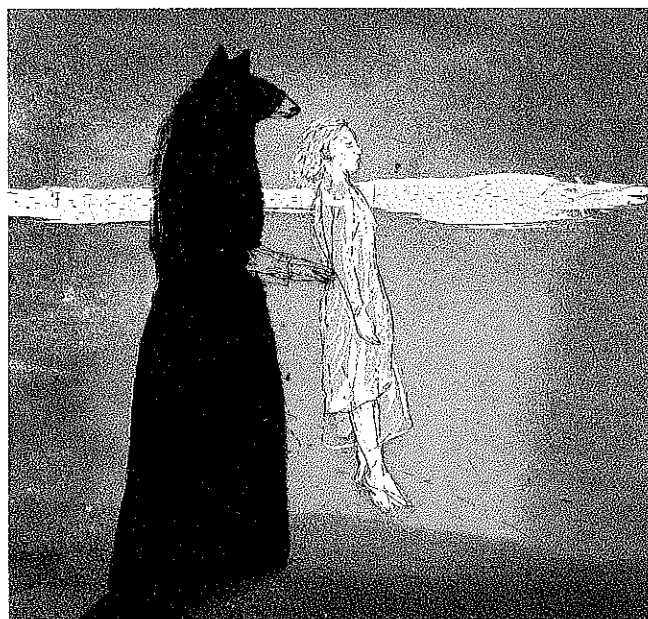
会期 平成15年9月20日(土)～11月24日(月・振休)
 会場 展示室2、3、4
 主催 群馬県立館林美術館、朝日新聞社
 協賛 コネ・コーポレーション
 フィンランド美術交流基金
 後援 フィンランド大使館、フィンランドセンター
 特別協力 ヘルシンキ市立美術館、山口県立美術館
 企画協力 トランスフォーム株式会社
 観覧料 一般800(640)円、大高生400(320)円
 () 内は20名以上の団体割引料金

北歐の国フィンランドは、歴史上長く他国の支配下であり、その間ひとつの民族としての自我意識が称揚されることはなかった。ロシア帝政下の大公国となった19世紀、医師エリヤス・リョンロットの手によって、膨大な量の神話・伝説が、フィンランド独自の口承文芸として体系化された。これが叙事詩『カレワラ』である。これによりフィンランドの人々は民族的自覚を強く持つに至り、自主独立への気運を高

めることに一役買ったといわれる。今日に至るまで、『カレワラ』はフィンランド国民の精神の拠り所であり、民族のシンボルとして人々の心に生き続けている。

本展覧会は、19世紀から現代に至るフィンランド美術の中から、『カレワラ』あるいは「神話」、さらにはそれらを育んだ自然に主題を求めた絵画、写真、映像など89点を紹介し、フィンランド美術の一側面を概観するとともに、「神話」が織りなす深い精神性をさぐることを目的とした。そのため、会場を「1 『カレワラ』とそれを育んだ自然」、「2 内なる自然」、「3 現代の神話」の3部構成とし、近現代の幅広い美術表現のなかに通底する「神話」というテーマをわかりやすく展示した。

日本ではあまりなじみのない作家・作品が多かったが、近年北歐の国に対する注目度が高くなっていることから、熱心な観覧者を集める結果となった。また、ヘルシンキ市立美術館学芸員の講演会、叙事詩『カレワラ』の朗読や民族楽器カンテレの演奏などを織り交ぜた美術講座も盛況であった。



神話が息づく
自然の国

フィンランドの美術

2003年9月20日(土)～11月24日(月・振休)

【開館時間】9:30am～5:00pm (入館料300円まで)
 【休館日】毎週月曜日(ただし10月13日・11月11日(祝日)を除く)、10月14日(火)、11月4日(火)
 【観覧料】一般800円(640円) / 大高生400円(320円) / 小学生以下200円(100円) / 中学生以下100円(50円)
 【主催】朝日新聞社、群馬県立館林美術館、コネ・コーポレーション、フィンランド美術交流基金
 【後援】フィンランド大使館、フィンランドセンター、ヘルシンキ市立美術館、山口県立美術館
 【企画協力】トランスフォーム株式会社
 【協賛】コネ・コーポレーション

群馬県立館林美術館 館林市 群馬県立館林美術館 館林市 群馬県立館林美術館 館林市
 〒372-0192 群馬県館林市 館林 1-1-1
 TEL 0286-22-1111 FAX 0286-22-1112
 館林市立美術館 館林市 群馬県立館林美術館 館林市 群馬県立館林美術館 館林市
 〒372-0192 群馬県館林市 館林 1-1-1
 TEL 0286-22-1111 FAX 0286-22-1112

The Art of Finland
Land of Nature and
Living Myth

ポスター

The Art of Finland Land of Nature and Living Myth

神話が息づく自然の国

フィンランドの作品といっしょに、
妖精トントウが日本にやって来た!

はじめて出会ったとき、言葉が通じずとも、
神話が息づく自然の国、フィンランドの心、世界に広がる。



図録

出品目録

No. 作者名	作品名	制作年	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	技法	所蔵
1 ユーハン・ブラックシュタディウス	カンテレを弾くワイナミョイネン	1851	81.0×65.0	油彩	カレワラ協会
2 ヴァイノ・プロムシュテッド	サンボの鍛造	1897	127.0×137.0	油彩	カレワラ協会
3 ヴァイノ・プロムシュテッド	サンボの奪回	1897	127.0×137.0	油彩	カレワラ協会
4 ファンニ・シユールベリ	冬の風景、夕	1878	26.0×41.0	油彩	フィンランド国立美術館・アテネウム
5 アルベルト・エデルフェルト	ソルヴェーグ	1893	82.0×55.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館
6 ガブリエル・エンゲベリ	ワタスゲの湿地	1900	26.0×60.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館、ベッカー・コレクション
7 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	ワイナミョイネンとアイノ (習作)	1890	59.0×59.0	油彩	トゥルク美術館
8 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	雪のイマトラの急流	1893	46.0×55.0	油彩	トゥルク美術館
9 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	レンミンカイネンの死	1896	35.0×85.0	油彩	ガッレン＝カッレラ美術館
10 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	クッレルボの呪い	1899	184.0×102.5	油彩	フィンランド国立美術館・アテネウム
11 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	トゥオネラの川辺	1903	18.0×12.0	エッチング	ガッレン＝カッレラ美術館
12 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	ヨウカハイネンの復讐	1903	20.0×17.5	エッチング	ガッレン＝カッレラ美術館
13 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	レンミンカイネンの母	1905	13.7×17.6	エッチング	ガッレン＝カッレラ美術館
14 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	サンボの防衛	1905	22.7×17.8	木版	ガッレン＝カッレラ美術館
15 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	山猫の棲	1906	98.0×67.0	油彩	個人蔵
16 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	大カレワラ、第1章「大きな突風が吹き寄せた…」		44.5×66.0	水彩	ガッレン＝カッレラ美術館
17 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	大カレワラ、第1章「東へ飛び、西へ飛び…」		44.5×66.0	水彩	ガッレン＝カッレラ美術館
18 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	大カレワラ、第1章「手を巡らせた所…」		42.0×62.0	水彩	ガッレン＝カッレラ美術館
19 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	大カレワラ、第2章「そこで老ワイナミョイネンは…」		48.5×62.0	水彩	ガッレン＝カッレラ美術館
20 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	折れた松	1906	124.0×137.0	油彩	個人蔵
21 ベッカ・ハロネン	雪の松	1909	64.0×41.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館
22 ベッカ・ハロネン	冬の風景	1917	68.2×55.5	油彩	ヘルシンキ市立美術館
23 ベッカ・ハロネン	ヴァイサラの丘からの眺め、ラピンラハティ	1918	51.5×69.7	油彩	ヘルシンキ市立美術館
24 エーロ・ヤーネフェルト	岸辺の石	1889	31.5×46.5	油彩	ヘルシンキ市立美術館
25 エーロ・ヤーネフェルト	コンガサラ	1890	28.0×34.5	油彩	ヘルシンキ市立美術館
26 エーロ・ヤーネフェルト	早春の太陽	1893	65.0×111.0	油彩	トゥルク美術館
27 エーロ・ヤーネフェルト	コリの秋の風景	1910	154.0×205.0	油彩	ラハティ美術館、ヴィープリ・アート・コレクション
28 エーロ・ヤーネフェルト	冬の風景	1912	66.0×45.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館
29 エドウィン・ルデン	トゥオネラの川辺のレンミンカイネン	1903	90.0×120.0	油彩	個人蔵
30 ヴィクトル・ウエステルホルム	急流	1902	58.5×134.0	油彩	トゥルク美術館
31 ヴィクトル・ウエステルホルム	放牧地		23.0×43.5	油彩	ヘルシンキ市立美術館
32 ヴィクトル・ウエステルホルム	夏の朝		50.7×96.8	油彩	ヘルシンキ市立美術館
33 フーゴ・シンベリ	ポピー	1896	37.0×53.0	油彩	オストロボスニア美術館
34 レオノラ・フレデリクソン	白鳥の歌 (B)	1994	92.5×119.5	油彩	ヘルシンキ市立美術館
34 レオノラ・フレデリクソン	白鳥の歌 (A)	1994	92.5×119.5	油彩	ヘルシンキ市立美術館
35 アクセリ・ガッレン＝カッレラ	死の花	1895	16.3×10.9	木版	ヘルシンキ市立美術館
36 オウティ・ヘイスカネン	夏の夜	1974	10.9×14.3	エッチング、アクアチント、ドライ・ポイント	作家蔵
37 オウティ・ヘイスカネン	夢	1974	17.1×16.5	エッチング、アクアチント、ドライ・ポイント	作家蔵
38 オウティ・ヘイスカネン	純潔のはかなさ	1984	180.0×100.0×52.0	木、パピエ＝マッシュ、布、皮	エスポー市

No. 作者名	作品名	制作年	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	技法	所蔵
39 オウティ・ヘイスカネン	月の影	1986	16.6×20.3	エッチング、アク アチント、ドライ ・ポイント	ヘルシンキ市立美術館
40 ヘレナ・ユンティラ	熊のリサ	1999	105.0×65.0	油彩	ジェニー&アン ティ・ヴィリフ基 金、ロヴァニエミ美 術館
41 マウノ・マルックラ	二人の悪魔		24.0×33.0	油彩	個人蔵
42 オスモ・ラウハラ	森の秘密 — 始まり	1990	244.0×168.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館
43 オスモ・ラウハラ	北極星を探してII	1993	35.5×49.5	モノタイプ	ヘルシンキ市立美術館
44 ユーホ・リッサネン	父の死	1902	49.0×83.0	水彩	オストロボスニア美術館
45 トュコ・サッリネン	狂信者	1918	71.0×62.0	油彩	個人蔵
46 トュコ・サッリネン	悪魔の踊りII	1919	108.0×81.0	油彩	オストロボスニア美術館
47 テーム・サウッコネン	アンノ・ドミニ	1984	212.0×143.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館
48 フーゴ・シンベリ	笛を吹く悪魔	1896	54.0×22.0	テンペラ	ヘルシンキ市立美術館 バックスバック・コ レクション
49 フーゴ・シンベリ	死の庭	1897	12.0×16.0	エッチング	ヘルシンキ市立美術館 ベッカー・コレクショ ン
50 フーゴ・シンベリ	死と農民		42.0×29.0	テンペラ	オストロボスニア美術館
51 リスト・スオミ	オルフェウスの意志	1986	100.0×136.0 33.0×33.0	アクリル	ヘルシンキ市立美術館
52 リスト・スオミ	フィンランドの謎	1986	73.0×173.0 30.0×38.0	アクリル	ヴァンター市
53 リスト・スオミ	本当の夜はどこか他の場所に	1987	194.0×242.0	アクリル、ミクス トメディア	ヘルシンキ市立美術館
54 リスト・スオミ	夏の物語	1988	110.0×170.0	アクリル	ヘルシンキ市立美術館
55 アンネ・トンブリ	告知	1986	251.0×120.5	油彩	ヘルシンキ市立美術館
56 ヘンリ・ヴォリラ=ステンベリ	絵画	1997	182.0×135.0	油彩、樹脂	ヘルシンキ市立美術館
57 アルヴァ・カヴェーン	並び育つ樺の木	1919	74.0×36.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館
58 アルヴァ・カヴェーン	漁師	1926	41.5×33.5	グワッシュ	個人蔵
59 アルヴァ・カヴェーン	荒地の小屋	1929	37.6×46.2	油彩	ヘルシンキ市立美術館
60 アルヴァ・カヴェーン	冬の太陽	1931	41.0×56.0	油彩	個人蔵
61 アルヴァ・カヴェーン	北方位標識	1933	65.5×66.0	油彩	個人蔵
62 アイモ・カネルヴァ	黄色い風景	1945	54.0×65.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館
63 テウリ・ハールラ	私は虫ではない…、ただの…、 虫の穴だ…	1995	各25.0×20.0	写真(3点組)	ヘルシンキ市立美術館
64 マルック・ラークソ	タンゴ	1998	140.0×215.0	油彩	
65 マルック・ラークソ	舟の嘆き—アクセリ・ガッレン= カッレラの作品 (1906-07年制 作) による	1999	157.0×235.0	油彩	
66 マルック・ラークソ	サンボの防衛—アクセリ・ガッレ ン=カッレラの作品 (1896年制 作) による	1999	125.0×125.0	油彩	
67 ユッカ・レヘティネン	無題	1995	各9.8×14.9	写真(7点組)	ヘルシンキ市立美術館
68 マウノ・マルックラ	薄暮の帆船	1943	33.0×41.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館 バックスバック・コ レクション
69 マウノ・マルックラ	朝	1950	33.0×41.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館 バックスバック・コ レクション
70 マウノ・マルックラ	輝く木	1951	41.0×33.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館 バックスバック・コ レクション
71 マウノ・マルックラ	家々	1959	55.0×46.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館 バックスバック・コ レクション
72 リーッカ・ポウルセン& ライモ・ウーニラ	ブレ・カレワラ	1997		ビデオ	
73 アンネ・シールトラ	木	1993		ビデオ	個人蔵
74 アンネ・シールトラ	ウッコ、天の神、慈悲深き創造者よ	1991	60.3×99.8	油彩	個人蔵

No.作者名	作品名	制作年	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	技法	所蔵
75 ヘンリック・シュトロムベリ	ここ北極星のもとに、 多幸症シリーズより	1993	129.0×247.0	アクリル	ヘルシンキ市立美術館
76 ヴェルッティ・テラスヴオリ	春の祭り、プレ・カレワラ・ シリーズより	1997	45.9×63.0	写真	フィンランド文学協会
77 ヴェルッティ・テラスヴオリ	トゥオニの娘、プレ・カレワラ・ シリーズより	1997	48.1×66.7	写真	作家蔵
78 ヴェルッティ・テラスヴオリ	アンテロ・ピブネンの腹の中の ワイナミョイネン、プレ・ カレワラ・シリーズより	1997	47.5×66.0	写真	フィンランド文学協会
79 ヴェルッティ・テラスヴオリ	山猫、プレ・カレワラ・ シリーズより	1997	50.5×78.5	写真	個人蔵
80 ヴェルッティ・テラスヴオリ	墓、プレ・カレワラ・シリーズ より	1997	50.5×69.0	写真	個人蔵
81 ヴェルッティ・テラスヴオリ	熊の踊り、プレ・カレワラ・ シリーズより	1997	65.0×47.0	写真	ニーロ・ヘランダー 基金、ヘイノラ美術 館
82 ヴェルッティ・テラスヴオリ	熊の踊り、プレ・カレワラ・ シリーズより	1997	65.0×47.0	写真	ニーロ・ヘランダー 基金、ヘイノラ美術 館
83 ヴェルッティ・テラスヴオリ	熊の踊り、プレ・カレワラ・ シリーズより	1997	65.0×47.0	写真	ニーロ・ヘランダー 基金、ヘイノラ美術 館
84 ヴェルッティ・テラスヴオリ	熊の踊り、プレ・カレワラ・ シリーズより	1997	65.0×47.0	写真	ニーロ・ヘランダー 基金、ヘイノラ美術 館
85 ヴェルッティ・テラスヴオリ	熊の踊り、プレ・カレワラ・ シリーズより	1997	65.0×47.0	写真	ニーロ・ヘランダー 基金、ヘイノラ美術 館
86 ヴェルッティ・テラスヴオリ	熊の踊り、プレ・カレワラ・ シリーズより	1997	65.0×47.0	写真	ニーロ・ヘランダー 基金、ヘイノラ美術 館
87 ティモ・ヴァルティアイネン	ルター派の労働観	1989		写真 (7点組)	ヘルシンキ市立美術館
88 ヘンリ・ヴォリラ=ステンベリ	絵画	1985	100.0×410.0	油彩	ヘルシンキ市立美術館
89 ヘンリ・ヴォリラ=ステンベリ	態度	1986-87	151.0×390.5	油彩	ヘルシンキ市立美術館



展示室 2



展示室 3

◎印刷物・会場作成物

- 図録 A4変形 (30.0×22.4cm) 36頁
- 内容：ごあいさつ (主催者)
ごあいさつ (ヘルシンキ市立美術館
館長 バート・アレ)
- 神話が息づく自然の国
北極圏のロックとタンゴの国フィンランド
(ヘルシンキ市立美術館 エリア・プーサ)
- 展覧会の背景と構成 (山口県立美術館 斎藤郁夫)
『カレワラ』とは? (山口県立美術館 斎藤郁夫)
カタログ (作品解説: 山口県立美術館 斎藤郁夫)
出品作品リスト
- 編集: トランスフォーム株式会社 迫村裕子、金井温子
デザイン: 磯部司デザイン事務所 磯部司、野村勝久、
笠井太陽、井口千尋、岡田一星
- 制作: 瞬報社写真印刷株式会社
発行: トランスフォーム株式会社
- ジュニアガイド A5、8頁
 - ポスター B2
 - ちらし A4変形2つ折り
 - パネル
挨拶パネル 2枚
(主催者挨拶、ヘルシンキ市立美術館長挨拶)
コーナーパネル 3枚
地図・年表パネル 2枚
フィンランドの美術館紹介パネル 3枚
 - 会場配布用作品リスト

◎主要関連記事 (長文記事は末尾に*)

[新聞等]

- 朝日新聞
- 9.5 『『フィンランドの美術 神話が息づく自然の国』展』
〈朝日新聞社の文化・スポーツ・事業〉*
- 9.12 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」展
20日から県立館林美術館で*
- 9.20 「フィンランド神話題材に美術展 館林できょうから」*
9.27、10.11、10.25 「フィンランドの美術」〈ぐんまマ
リオン 沿線美術館情報〉
- 11.5 フィンランドの美術〈ぐんまマリオン ミュージアム〉
- 桐生タイムス
- 9.18 「神話」キーワードに フィンランド美術の魅力
20日から館林美術館で*
- 産経新聞
- 9.18 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」
〈ぐん ぐん ぐんま〉- 上毛新聞

9.12、10.3、10.17、10.24、11.7 「フィンランドの美術
神話が息づく自然の国」〈気になる情報 ぱれっと〉

9.13、11.19 「館林美術館『フィンランドの美術』展」

〈ゆうまちゃんの掲示板〉

- 9.17、10.28 「館林美術館「フィンランドの美術」展作品
解説会」〈ゆうまちゃんの掲示板〉
- 9.20 「フィンランド美術一堂に きょうから館林 近現代
絵画など89点」*
- 9.29 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」
自然や民族意識 概観〈文化〉*
- 11.21 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」
〈気になる情報 ぱれっと 県内美術館・博物館〉
- 上毛新聞シャトル (館林ニュース)
- 9.7、9.21、10.5、10.19、11.2、11.16 「フィンランド
の美術 神話が息づく自然の国」〈MUSEUM〉
- 9.8、9.12、9.15、9.19、9.22、9.26、9.29、10.3、
10.6、10.10、10.13、10.17、10.20、10.24、10.27、
10.31、11.3、11.7、11.11、11.14、11.17、11.21、
11.24 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」
〈出かけてみませんか 情報BOX〉
- 9.15 「フィンランドの美術記念講演会」〈出かけてみま
せんか 情報BOX〉
- 9.23 「自然愛する心感じて フィンランドの美術 11月
まで館林美術館」*
- 9.28 「フィンランドの美術講座を開講 来月5日から県立
館林美術館」*
- 10.24 フィンランドの美術関連講座「フィンランドの音楽」
〈出かけてみませんか 情報BOX〉
- 館林タイムス
- 9.13 「フィンランドの美術等 県立館林美術館」*
- 東京新聞
- 9.18、10.2、10.16、10.30、11.13 「フィンランドの美
術 神話が息づく自然の国」〈ゆめ・ぼっけ 美術館、
博物館〉- まいにち

9月 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」
10月 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」
11月 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」

 - 毎日Weekly くりくり

9.21 館林市「フィンランドの美術 神話が息づく自然の
国」〈何でも掲示板〉- 毎日新聞

10.1 「伝説、神話、自然を 企画展フィンランドの美術
来月24日まで」〈見る聴く遊ぶ 群馬〉*

10.8、10.22、10.29、11.5、11.12、11.19 「フィンラン
ドの美術展」〈Gallery 見る 群馬のミュージアム〉- 群馬よみうり あみーご

11.1 「館林 学芸員による作品解説」〈講座・教室〉

[定期刊行物]

 - 足利漫我人

9月、10月、11月 「フィンランドの美術〜神話が息づく自
然の国〜」*- からっ風

- 9.10月号 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」*
 ・ギャラリー
 10月 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国
 (広告)」
 ・グラフぐんま
 10月 「フィンランドの美術—神話が息づく自然の国—」*
 〈ギャラリー〉
 ・ぐんま見聞録
 9.12 「いいとこ先取り」
 10.17 「フィンランドの美術」開催〈読者の広場〉
 ・芸術新潮
 10月 「日本初公開「フィンランドの美術 神話が息づく
 自然の国」展」*
 ・広報たてばやし
 9月 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」
 ・広報めいわ
 9月 「企画展示「フィンランドの美術～神話が息づく自然
 の国～」」
 ・広報めぬま
 11月 群馬県立館林美術館「フィンランドの美術～神話が
 息づく自然の国～」
 ・上毛でりじえい
 9.10月 「フィンランドの美術～神話が息づく自然の国～」*
 ・すたんぴーど
 10月 「フィンランドの美術—神話が息づく自然の国—」
 ・美術手帖
 9月 「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」
 〈PREVIEWS〉*
 ・マンスリーとーぶ
 9月 「フィンランドの美術と神話—群馬県立館林美術館」*
 ・マイ・リトル・タウン
 9月、10月、11月 「フィンランドの美術 神話が息づく自
 然の国」*
 ・渡良瀬通信
 10月、11月 「フィンランドの美術—神話が息づく自然の国—」

[連載記事]

- ・朝日新聞



展示室4

- 10.16 「フィンランドの美術 (上)」*
 10.17 「フィンランドの美術 (中)」*
 10.18 「フィンランドの美術 (下)」*
 ・上毛新聞シャトル (館林ニュース)
 10.17 「神話の国から～フィンランド美術の魅力～(上)」*
 10.31 「神話の国から～フィンランド美術の魅力～(中)」*
 11.14 「神話の国から～フィンランド美術の魅力～(下)」*

◎放送

[テレビ]

- ・群馬テレビ
 9.27
 10.24 19:30-20:00
 10.26 17:30-18:00 〈ぐんまインフォメーション〉
 11.5 12:00-12:05 県政ガイド
 ・NHK総合テレビ
 9.1 〈こんにちは いっと6けん〉

[ラジオ]

- ・FM MIT
 10.19 13:00-14:00 〈ともみとりエのおしゃべりティータイム〉
 ・FM TARO
 9.16 8:20-25 〈ぐんまいきいき情報〉

◎関連事業

- ・記念講演会「フィンランドの美術」
 9.20 講師：テイヤ・モノネン氏 (ヘルシンキ市立美術館学芸員)
 ・美術講座
 10.5 「フィンランドの自然と神話」
 講師：橋本ライヤ氏 (東海大学北欧学科講師)
 10.26 「フィンランドの音楽」
 講師：はざた雅子氏 (カンテレ演奏家)
 11.9 「フィンランドの美術」
 講師：本橋弥生氏 (国立新美術館設立準備室研究員)
 ・ワークショップ「ハクチョウ観察隊」
 11.22、23 対象：小学生～一般 講師：担当学芸員



美術講座「フィンランドの音楽」

1. 福沢一郎の世界

会期 平成15年6月7日(土)～7月6日(日)
 会場 展示室2、3
 主催 群馬県立館林美術館
 観覧料 一般200(160)円、大高生100(80)円
 () 内は20名以上の団体割引料金

群馬県西部、富岡町(現在の富岡市)生まれの洋画家、福沢一郎(1898-1992)の作品を、ほぼ時系列に従ってたどった。群馬県立近代美術館で、これまでに数多くの紹介の機会があったが、群馬県東部地域における、こうした規模でのまとまった紹介は初めてのことである。

福沢一郎は、シュレアリズム運動の、造形芸術分野における、日本への紹介者としてとりわけ著名である。1920年

代後半から1930年代前半にかけての活動が、もっとも良く知られているが、その後も力強い画面表現と諧謔味のある魅力あふれる作品を、多数残している。今回はそうした全貌を、網羅的ではないもののポイントを絞って紹介した上で、1970年代以降を中心に制作された、大画面の作品群に特に焦点を当て構成した。

全体を「1930年代」、「1940年代」、「1950年代」、「1960年代」、「1970年代」、「版画」の6章に分け、油彩画、アクリル画ははじめの5章で年代に分けて紹介した。1970年代以降の大画面の作品は、プランが長方形である展示室2の外側の壁面に鑑賞者を取り巻くように配置し、シリーズごとの構成とした。版画に関しては別に展示室3に展示した。

特別展示
福沢一郎の世界

2003年6月7日(土) — 7月6日(日)

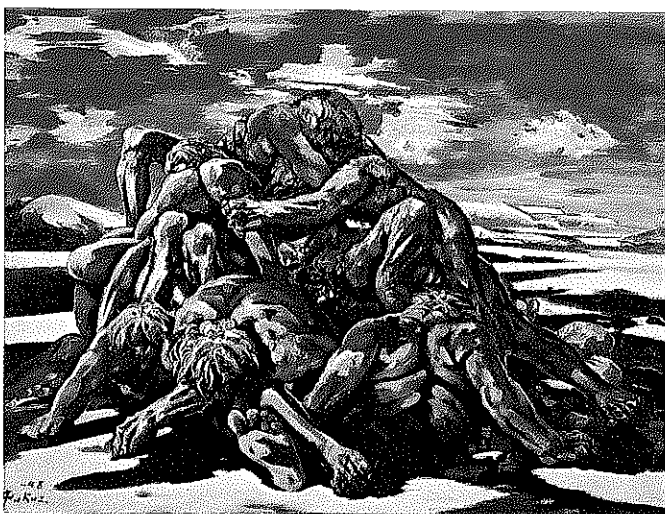
群馬県立館林美術館

TEL 027-22-8108 FAX 027-22-0233

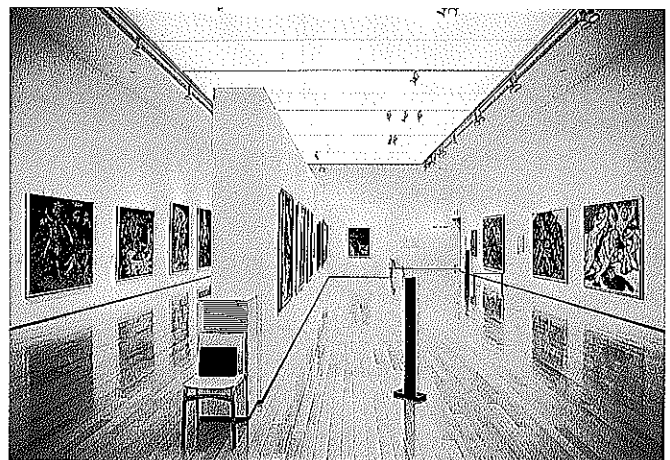
http://www.gmlm.jp

GMAT

【特別展示】
 福沢一郎の世界(1898-1992)
 【開催期間】
 土曜デー・日曜デー・祝日 6月7日(土)～7月6日(日)
 午後12時～午後5時 観覧料 一般200円(160円) 大高生100円(80円)
 【観覧料】
 一般200円(160円) 大高生100円(80円)
 ※10人以上の団体割引あり



ポスター



展示室2



展示室3

出品目録

	No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)
1930年代	1	《嘘発見器》	1930 (昭和5)	油彩・カンヴァス	80.3×100.0
	2	《他人の窓》	1930 (昭和5)	油彩・カンヴァス	162.1×130.3
1940年代	3	《失題》	1946 (昭和21)	油彩・カンヴァス	100×72.8
	4	《敗戦群像》	1948 (昭和23)	油彩・カンヴァス	193.9×259.1
	5	《虚脱》	1948 (昭和23)	油彩・カンヴァス	116.7×90.9
1950年代	6	《顔》	1955 (昭和30)	油彩・カンヴァス	116.7×90.9
	7	《森の人間達》	1955 (昭和30)	油彩・カンヴァス	130.3×97.0
	8	《魚とネオン》	1959 (昭和34)	油彩・カンヴァス	97.3×130.5
1960年代	9	《デモ》	1965 (昭和40)	アクリル・カンヴァス	130.3×97.0
	10	《投票》	1965 (昭和40)	アクリル・カンヴァス	130.3×97.0
	11	《ハーレム》	1965 (昭和40)	アクリル・カンヴァス	130.3×97.0
1970年代	12	《バックス達》	1970 (昭和45)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3
	13	《バックス達》	1970 (昭和45)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3
	14	《ニンフと牧神》	1970 (昭和45)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3
	15	《牧神》	1970 (昭和45)	アクリル・カンヴァス	227.3×181.8
	16	《ニンフと牧神》	1970 (昭和45)	アクリル・カンヴァス	227.3×181.8
	17	《ダンテ暗闇の森へ》	1971 (昭和46)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3
	18	《ネッソの背にのるダンテとヴィルジリオ》	1971 (昭和46)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3
	19	《氷にとざされた亡者達》	1971 (昭和46)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3
	20	《滅びの民 (I) 》	1973 (昭和48)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3
	21	《滅びの民 (II) 》	1973 (昭和48)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.4
	22	《滅びの民 (III) 》	1973 (昭和48)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.5
	23	《蛇に襲われる盗賊達》	1973 (昭和48)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.6
	24	《分離と不和の種を蒔く者達》	1973 (昭和48)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.7
	25	《衆合地獄》	1973 (昭和48)	アクリル・カンヴァス	227.3×181.8
	26	《アニョロ・プルネレスキを襲う蛇》	1974 (昭和49)	アクリル・カンヴァス	227.3×181.8
	27	《蛇となるアニョロ》	1974 (昭和49)	アクリル・カンヴァス	227.3×181.8
	28	《トイレットペーパー地獄》	1974 (昭和49)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3
	29	《ディーテの門を押しわけて入る天使》	1974 (昭和49)	アクリル・カンヴァス	181.8×227.3
	版画	30	《裸婦》	1955 (昭和30)	リトグラフ・紙
31		《顔》	1955 (昭和30)	リトグラフ・紙	33.8×24.1
32		《座る男》	1955 (昭和30)	リトグラフ・紙	48.5×34.7
33		《二つの顔》	1955 (昭和30)	リトグラフ・紙	16.0×61.5
34		《夜の鳥》	1955 (昭和30)	リトグラフ・紙	60.3×43.1
35		《メキシコの人》	1956 (昭和31)	リトグラフ・紙	64.5×50.9
36		《ペールをかぶった女》	1958 (昭和33)	リトグラフ・紙	33.9×24.1
37		《弓矢を持った人》	1958 (昭和33)	リトグラフ・紙	33.8×24.1
38		《騎馬闘牛 (「スペイン闘牛」より、No.1) 》	1979 (昭和54)	リトグラフ・紙	41.5×57.0
39		《バス・ドブレの調べ (「スペイン闘牛」より、No.2) 》	1979 (昭和54)	リトグラフ・紙	60.5×47.0
40		《ひるがえる赤きムレータ (「スペイン闘牛」より、No.3) 》	1979 (昭和54)	リトグラフ・紙	56.5×50.0
41		《美女ひとり (「スペイン闘牛」より、No.4) 》	1979 (昭和54)	リトグラフ・紙	54.0×37.0
42		《高いパセ (「スペイン闘牛」より、No.5) 》	1979 (昭和54)	リトグラフ・紙	67.0×47.5
43		《牧神とニンフ》	1979 (昭和54)	リトグラフ・紙	78.2×58.0
44		《魏志倭人伝No.6 卑弥呼初めて宮殿に入る》	1981 (昭和56)	リトグラフ・紙	53.0×42.0
45		《魏志倭人伝No.11 卑弥呼巫儀を行う》	1981 (昭和56)	リトグラフ・紙	53.0×42.0
46		《魏志倭人伝No.12 倭国乱れる》	1981 (昭和56)	リトグラフ・紙	53.0×42.0
47		《ギリシャ神話物語から・ナルキッソス》	1985 (昭和60)	リトグラフ・紙	45.5×38.0
48		《ギリシャ神話物語から・ポセイドン》	1985 (昭和60)	リトグラフ・紙	38.0×45.5
49	《ギリシャ神話物語から・牧神》	1985 (昭和60)	リトグラフ・紙	45.5×38.0	

※所蔵はすべて群馬県立近代美術館

◎印刷物・会場作成物

- ・ポスター B2
- ・ちらし A4
- ・パネル
章解説パネル 6枚
解説パネル 3枚

◎主要関連記事（長文記事は末尾に*）

[新聞等]

- ・朝日新聞
6.21、6.28 「福沢一郎の世界」〈ぐんまマリオン 沿線美術館情報〉
- ・おおたタイムス
5.31 「反骨精神をダイナミックに表現 福沢一郎の世界 県立館林図書館（ママ）」*
- ・産経新聞
6.5、6.12、6.19、6.26
「福沢一郎の世界」〈アートカレンダー〉
- ・上毛新聞
6.6 「特別展示「福沢一郎の世界」」〈週末の主な観光イベント〉
- 6.7 「館林美術館特別展示「福沢一郎の世界」」〈ゆうまちゃんの掲示板〉
- 6.17 「半世紀の画業一覧 6日まで「福沢一郎の世界展」館林美術館」*
- 7.4 「福沢一郎の世界」〈気になる情報 ぱれっと〉
- ・上毛新聞シャトル（館林ニュース）
5.26、5.30、6.2、6.7、6.10、6.13、6.17、6.20、6.23、6.27、6.30、7.4
「福沢一郎の世界」
〈出かけてみませんか 情報BOX〉
- 6.1、29 「福沢一郎の世界」〈museum〉
- 6.15 「力作50点 魅惑の福沢ワールド 来月6日まで県立館林美術館」*
- ・館林タイムス
5.31、6.7 「反骨精神をダイナミックに表現 福沢一郎の世界 県立館林美術館」〈展示〉
- ・毎日新聞
6.18、6.25、7.2
「福沢一郎の世界」〈Gallery 見る 群馬のミュージアム〉
- ・読売新聞
6.6 「特別展示「福沢一郎の世界」」〈イベントガイド 群馬〉
- ・群馬よみうり あみーご
6.7 「福沢一郎の世界を紹介 7日～7月6日、館林」〈展示〉
- ・My City TATEBAYASHI
6.12 「福沢一郎の世界」〈イベント・インフォメーション 美術・ギャラリー〉
- 7.11 「現代の彫刻、福沢一郎の世界、ピカソ・ミロ版画展、

親子のための美術展「動物、アートとなる」 〈イベント・インフォメーション 美術館〉

[定期刊行物]

- ・足利漫我人
6、7月号 「福沢一郎の世界」〈県立館林美術館情報〉
- ・からっ風
5月・6月号 「福沢一郎の世界」〈Art Museum 2003 美術館情報〉
- ・ギャラリー
6、7月号 「特別展示 福沢一郎の世界」〈美術館〉
- ・教育ぐんま
399号 3月号 「福沢一郎の世界」〈平成15年度 県立美術館・博物館による教職員のための展示解説会について〉
- ・広報めいわ
No.57 6月号 「特別展示「福沢一郎の世界」」〈くらしの情報〉
- ・広報めぬま
6月号 「特別展示「福沢一郎の世界」
- ・マイ・リトル・タウン
6、7月号 福沢一郎の世界」〈美術・展示〉
- ・渡良瀬通信
6、7月号 「福沢一郎の世界」〈美術館〉
- ・Otome
7月号 「福沢一郎の世界」〈県の情報 北毛・東毛〉
- ・SALUS（サルース）東急沿線生活情報誌
6月号 「福沢一郎の世界」〈LIFE&RESORT〉

[連載記事]

- ・上毛新聞
6.23 中田宏明「県立館林美術館特別展示 「福沢一郎の世界」から 上 ギリシャ神話 70年の「旅行」きっかけ パッカス達 ナルキッソス」*
- 6.30 伊藤佳之「県立館林美術館特別展示 「福沢一郎の世界」から 下 地獄 人間への批判と愛情 失題 ふたつの地獄」*

◎放送

[テレビ]

- ・群馬テレビ
6.7 〈ニュース〉
- ・NHK総合テレビ（関東ローカル）
「福沢一郎の世界」〈こんにちは ずっと6けん〉

[ラジオ]

- ・FMぐんま
6.13 〈ぐんま情報トッピング〉
- 6.13 〈FM県政ガイド〉
- ・FM TARO
〈ぐんまいきいき情報〉

2. 永井一正のポスター

会期 平成15年12月6日(土)～平成16年4月4日(日)
(平成16年度に継続)
Ⅰ期：12月6日(土)～1月12日(月・祝)
Ⅱ期：1月15日(木)～2月22日(日)
Ⅲ期：2月25日(水)～4月4日(日)

会場 展示室2
主催 群馬県立館林美術館
観覧料 一般200(160)円、大高生100(80)円
()内は20名以上の団体割引料金

現代日本を代表するグラフィックデザイナー永井一正(1929～)の、動物をモチーフとしたポスター作品を展示した。館林美術館所蔵の全145点を、3つの会期に分けて展示した。

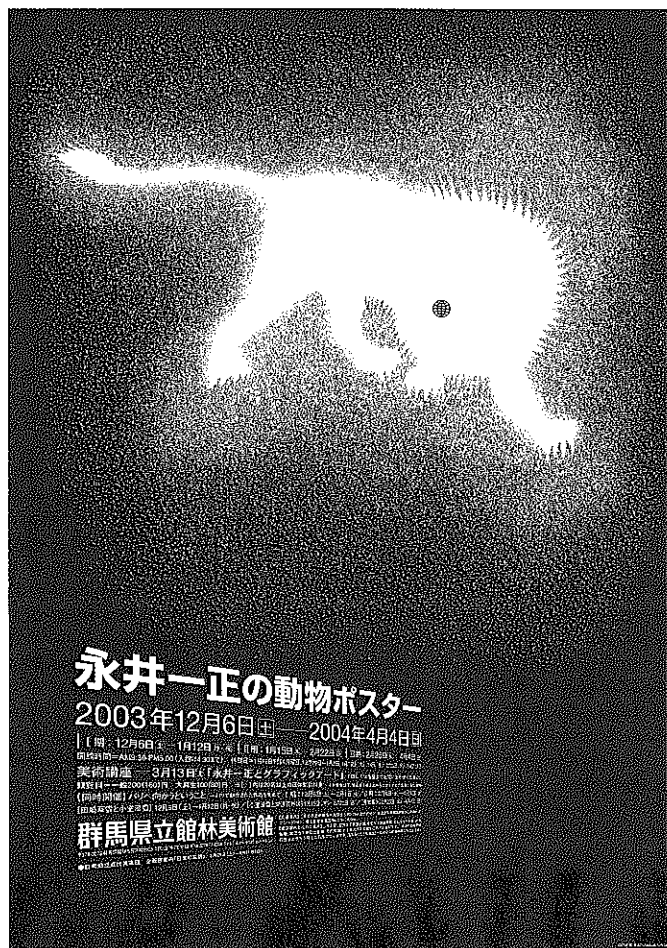
幾何学的形態を多く用いた抽象的作風で知られていた永井一正が、ポスター制作の主要なテーマに動物を据えたのは、1987年頃のことである。このことは当時、グラフィッ

クデザインの世界に驚きを持って迎えられた。今回出品の作品は、1986年から1998年までに制作されており、大まかに言うと、動物と混在していた幾何学的な要素が少なくなり、徐々にフリーハンドで描いた線が増えて行く傾向がある。

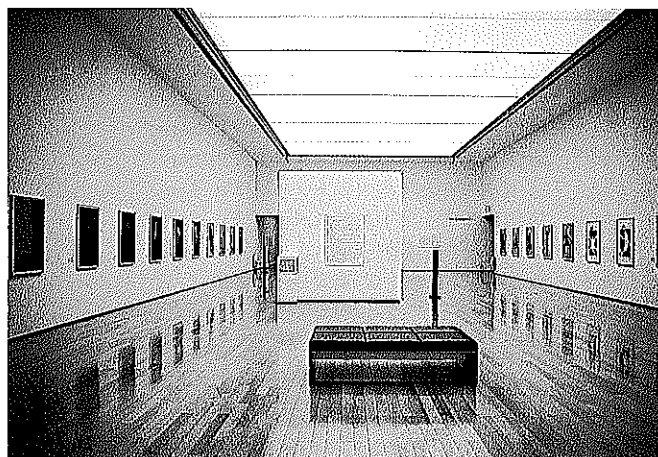
動物は、ただ可愛らしく描かれているのではなく、恐さ、怖しさを含んだ存在として描かれている。人間の愛玩対象としての動物ではなく、動物本来の荒々しさをデフォルメした形で表現することによって、あらゆる生物に共通する命の尊さを表現したいという作家の意図の現れである。

出品作はすべてB1判サイズのポスターであり、各会期おのおの50点弱の作品を展示室2に展示した。等間隔に作品を並べたため、非常に整然とした空間構成となった。作品は、制作年ごとに区切って展示し、作風が変化していく様子が、分かりやすいようにした。

動物という親しみ易いテーマを、優れたデザイン感覚によって作品化しており、幅広い層の好評を得た。



ポスター



出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)
[I期]				
I-1	わたしたちの壁画'88	1987	オフセット・紙	103.0×72.8
I-2	4 G-Dポスター展“JAPAN” (花)	1987	オフセット・紙	103.0×72.8
I-3	JAGDAポスター展“JAPAN” (カメ)	1988	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
I-4	JAGDAポスター展“JAPAN” (カエル)	1988	シルクスクリーン・紙	103.0×73.0
I-5	わたしたちの壁画'89	1988	オフセット・紙	103.0×72.8
I-6	JAGDAポスター展“WATER” (ハリネズミ)	1989	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
I-7	JAGDAポスター展“WATER” (ライオン)	1989	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-8	永井一正展 (クジラ)	1989	オフセット・紙	103.0×72.6
I-9	永井一正展 (馬)	1989	オフセット・紙	103.0×73.0
I-10	永井一正展 (猪)	1989	オフセット・紙	103.0×72.8
I-11	永井一正展 (鹿)	1989	オフセット・紙	103.0×72.8
I-12	永井一正展 (トラ)	1989	オフセット・紙	103.0×72.8
I-13	日本文化デザイン会議'89 千葉 [幕張]	1989	オフセット・紙	103.0×73.0
I-14	移動美術館'89 美との出会い	1989	オフセット・紙	103.0×72.6
I-15	第6回CSデザイン賞作品募集	1989	オフセット・紙	103.0×72.8
I-16	わたしたちの壁画'90	1989	オフセット・紙	103.0×72.6
I-17	'90 富山の美術	1989	オフセット・紙	103.0×72.8
I-18	YOKOGAWA	1989	シルクスクリーン・紙	103.0×72.4
I-19	モリサワ	1989	オフセット・紙	103.4×73.2
I-20	トマト銀行 (鳥)	1989	オフセット・紙	102.8×72.8
I-21	トマト銀行 (魚)	1989	オフセット・紙	103.0×72.8
I-22	永井一正ポスター100展	1990	オフセット・紙	103.0×72.6
I-23	永井一正と日本デザインセンター展	1990	オフセット・紙	103.0×72.8
I-24	永井一正展 (花)	1990	オフセット・紙	103.0×73.0
I-25	永井一正展 (魚)	1990	オフセット・紙	103.0×72.8
I-26	永井一正展 (鹿)	1990	オフセット・紙	103.0×73.0
I-27	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION	1990	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-28	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION	1990	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-29	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION	1990	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-30	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION	1990	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-31	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION	1990	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-32	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION	1990	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-33	わたしたちの壁画'91	1990	オフセット・紙	103.0×73.0
I-34	NKK	1990	シルクスクリーン・紙	103.4×72.6
I-35	YOKOGAWA	1990	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-36	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION (サル)	1991	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-37	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION (シカ)	1991	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-38	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION (ゾウ)	1991	シルクスクリーン・紙	103.2×72.4
I-39	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION (ウサギ)	1991	シルクスクリーン・紙	103.4×72.8
I-40	KAZUMASA NAGAI EXHIBITION (ヒツジ)	1991	シルクスクリーン・紙	103.2×72.6
I-41	YOKOGAWA	1991	シルクスクリーン・紙	102.8×72.8
I-42	永井一正ポスター展	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
I-43	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
I-44	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-45	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
I-46	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
I-47	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
I-48	デザインフォーラム'93公募作品募集	1993	オフセット・紙	103.0×72.6
I-49	デザインフォーラム'93公募展	1993	オフセット・紙	103.0×72.8

No.	作 品 名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)
[Ⅱ期]				
II-1	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(キリン)	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-2	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(シカ)	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
II-3	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(オオカミ)	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-4	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(サイ)	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-5	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(イノシシ)	1992	シルクスクリーン・紙	103.0×73.0
II-6	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(サイ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-7	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(クマ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-8	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(水牛)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-9	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(トラ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-10	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(ゾウ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
II-11	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(サル)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-12	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(ライオン)	1993	シルクスクリーン・紙	102.8×72.6
II-13	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(シカ)	1993	シルクスクリーン・紙	102.5×72.8
II-14	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(サイ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
II-15	JAGDA平和と環境のポスター展“I'm here.”(水牛)	1993	シルクスクリーン・紙	102.5×72.6
II-16	永井一正デザインライフ(トリ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-17	永井一正デザインライフ(オオカミ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.6×72.6
II-18	永井一正デザインライフ(サル)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-19	永井一正デザインライフ(ネコ)	1993	シルクスクリーン・紙	102.8×72.6
II-20	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(ゾウ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-21	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(ウマ)	1993	シルクスクリーン・紙	102.8×72.8
II-22	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(ウシ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-23	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(目)	1993	シルクスクリーン・紙	103.2×72.6
II-24	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(耳)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-25	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(角)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-26	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(歯)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-27	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(尾)	1993	シルクスクリーン・紙	102.8×72.6
II-28	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(足)	1993	シルクスクリーン・紙	102.8×72.8
II-29	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(オオカミ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-30	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(シカ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.2×72.8
II-31	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(ライオン)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-32	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(サル)	1993	シルクスクリーン・紙	103.2×72.8
II-33	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(ゾウ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-34	SAVE BEING AND SAVE WORLD(シカ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-35	SAVE BEING AND SAVE WORLD(ヒョウ)	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
II-36	第8回CSデザイン賞作品募集	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-37	THE LANDMARK TOWER	1993	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-38	モリサワ	1993	オフセット・紙	103.0×72.8
II-39	永井一正展	1994	オフセット・紙	103.0×72.8
II-40	現代の表現Ⅱ 7人の作家展	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×73.0
II-41	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(へび/滝)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-42	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(トリ/花)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-43	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(トリ/月)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
II-44	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(オオカミ/川)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-45	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(ゾウ/森)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-46	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(ウサギ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
II-47	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(サル)	1994	シルクスクリーン・紙	102.6×72.8
II-48	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE(ワニ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.4

No.	作 品 名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)
[Ⅲ期]				
III-1	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE (サル)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×73.0
III-2	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE (ゾウ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-3	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE (クマ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-4	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE (ヒョウ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
III-5	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE (サイ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-6	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE (ワニ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
III-7	KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE (トリ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-8	LIFE TO SHARE (人/シカ)	1994	シルクスクリーン・紙	102.8×72.8
III-9	LIFE TO SHARE (人/キリン)	1994	シルクスクリーン・紙	102.8×72.8
III-10	LIFE TO SHARE (人/シカ)	1994	シルクスクリーン・紙	102.8×72.6
III-11	LIFE TO SHARE (人/サル)	1994	シルクスクリーン・紙	102.2×72.6
III-12	LIFE TO SHARE (人/ヒョウ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-13	I'm here. (森/サル)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-14	I'm here. (海/クジラ)	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-15	I'm here. (ウマ)	1994	シルクスクリーン・紙	102.5×72.8
III-16	I'm here. (ウシ)	1994	シルクスクリーン・紙	102.6×72.8
III-17	I'm here. (ゾウ)	1994	シルクスクリーン・紙	102.6×72.8
III-18	UENO ZOO	1994	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
III-19	みんなでつくろう'95	1995	オフセット・紙	103.0×72.8
III-20	現代の表現Ⅲ 7人の作家展	1995	シルクスクリーン・紙	102.4×72.6
III-21	save nature (オオカミ)	1995	シルクスクリーン・紙	102.8×72.8
III-22	save nature (ヘビ)	1995	シルクスクリーン・紙	103.2×72.8
III-23	save nature (トリ)	1995	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
III-24	save nature (トカゲ)	1995	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-25	save nature (サル)	1995	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
III-26	LIFE (キリン)	1995	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-27	LIFE (ライオン)	1995	シルクスクリーン・紙	103.0×72.0
III-28	LIFE (シマウマ)	1995	シルクスクリーン・紙	103.0×73.0
III-29	LIFE (ネコ)	1995	シルクスクリーン・紙	102.8×72.6
III-30	LIFE (サイ)	1995	シルクスクリーン・紙	103.0×73.0
III-31	Life to share	1995	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-32	Shaken	1995	オフセット・紙	103.0×72.6
III-33	LIFE TO SHARE (手/ヒョウ)	1995	シルクスクリーン・紙	102.8×72.8
III-34	LIFE TO SHARE (手/イノシシ)	1996	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-35	LIFE TO SHARE (手/ワニ)	1996	シルクスクリーン・紙	102.8×72.8
III-36	LIFE TO SHARE (手/ゾウ)	1996	シルクスクリーン・紙	102.8×72.8
III-37	LIFE TO SHARE (手/ライオン)	1996	シルクスクリーン・紙	102.6×72.6
III-38	第10回CSデザイン賞作品募集	1996	オフセット・紙	103.0×72.6
III-39	JAGDAポスター展“SAVE”(黒/ゾウ)	1997	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-40	SAVE (赤/キリン)	1997	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-41	SAVE (赤/シロクマ)	1997	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-42	SAVE (赤/サイ)	1997	シルクスクリーン・紙	103.2×72.8
III-43	SAVE (赤/オオカミ)	1997	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6
III-44	SAVE (赤/ライオン)	1997	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-45	SAVE (赤/ウサギ)	1997	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-46	SAVE (オオカミ)	1997	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-47	SAVE (サル)	1998	シルクスクリーン・紙	103.0×72.8
III-48	SAVE (ライオン)	1998	シルクスクリーン・紙	103.0×72.6

※所蔵はすべて当館

◎印刷物・会場作成物

- ポスター B2
- ちらし A4
- パネル
- 解説パネル 3枚

◎主要関連記事（長文記事は末尾に＊）

[新聞等]

- 朝日新聞
12.20、12.27、1.17、2.14、2.28、3.13、3.27
「群馬県立館林美術館 永井一正の動物ポスター」
〈ぐんまマリオン 沿線美術館情報〉
1.22 大西若人「近代と民族性ひとつに 永井一正さん2
つのポスター展」＊
- 下野新聞
1.15 「永井一正の動物ポスター」〈展示館だより〉
1.17 「動物ポスターの永井さん特別展 所蔵作品まとめて
紹介 館林美術館」＊〈館林〉
- 上毛新聞
12.10 「県立館林美術館 永井一正の動物ポスター展 多
彩に「申」デザイン」〈プリズム21〉
12.19、2.14、3.13 「館林美術館特別展示「永井一正の動
物ポスター」展」〈ゆうまちゃんの掲示板〉
12.19、2.13、3.5、3.26 「県立館林美術館 「永井一正
の動物ポスター」」〈気になる情報 ぱれっと〉
1.16 「KAZUMASA NAGAI DESIGN LIFE (サル)」
〈気になる情報 ぱれっと 県内美術館・博物館〉
3.19 「作品制作の秘密紹介 デザイナーの永井さん対談
県立館林美術館」
- 上毛新聞シャトル（館林ニュース）
11.28、12.1、12.5、12.8、12.12、12.19、12.22、
12.26、1.9、1.12、1.16、1.19、1.23、1.26、1.30、
2.6、2.13、2.16、2.20、2.23、2.27、3.1、3.5、3.12、
3.16、3.19、3.21、3.26、3.29、4.2
「「永井一正の動物ポスター」展」〈出かけてみませ
んか 情報BOX〉
12.13 「個性豊かな145匹 館林美術館 永井一正の動物
ポスター展 畏怖 尊厳 独特デザイン サル、ウサ
ギ、クジラ…」
- 12.14、1.11、1.25、2.8、2.22、3.21
「永井一正の動物ポスター」〈museum〉
- 東京新聞
12.4 「永井一正の動物ポスター I期」
〈ゆめ・ぼっけ 美術館、博物館〉
1.15、1.29 「永井一正の動物ポスター II期」
〈ゆめ・ぼっけ 美術館、博物館〉
3.5、3.17、3.25 「永井一正の動物ポスター III期」
〈ゆめ・ぼっけ 美術館、博物館〉
3.26 「永井一正の動物ポスター展」〈お楽しみウィークリ

－ 展覧会

- 新潟日報
1.9 「永井一正の動物ポスター」〈首都圏あらかると
美術館〉
- まいにち
12.12、1.28、2.14 「永井一正の動物ポスター」〈イベン
ト・インフォメーション 美術館〉
- 毎日新聞
1.7 「館林美術館（館林市）「永井一正の動物ポスター I
期」〈Gallery 見る 群馬のミュージアム〉
1.14、1.21、1.28、2.11 「館林美術館（館林市）「永井
一正の動物ポスター II期」〈Gallery 見る 群馬の
ミュージアム〉
2.4 「斬新さに魅せられ 永井一正 「動物ポスター展」
県立館林美術館」〈Gallery 見る 群馬のミュージ
アム〉
2.25、3.3、3.10、3.17、3.24 「館林美術館（館林市）
「永井一正の動物ポスター III期」〈Gallery 見る
群馬のミュージアム〉
- 読売新聞
1.7、2.18 「永井一正の動物ポスター」〈いぶにんぐスベ
シヤル 美術館 博物館 情報〉
- 群馬よみうり あみーご
12.6 「永井一正の動物画を展示 来年4月4日まで、館林
美術館」＊
- THE DAILY YOMIURI
1.8 “Nagai’s animal posters focus of display”〈ART〉
- [定期刊行物]
•足利漫我人
12～3月号 「永井一正の動物ポスター」〈県立館林美術館
情報〉
- 楽SAI
12～2月号 「特別展示 永井一正の動物ポスター」〈群馬
県内施設イベント情報〉
- からっ風
第94（11・12月）号 「永井一正の動物ポスター」
〈Art Museum 2003 美術館情報〉
第95（1・2月）号 「永井一正の動物ポスター」
〈Art Museum 2004 美術館情報〉
- 教育ぐんま
399（3月）号 「永井一正の動物ポスター」〈平成15年度
県立美術館・博物館による教職員のための展示解説会
について〉
- ギャラリー
12～3月号 「特別展示 永井一正の動物ポスター」
〈ART SCHEDULE MUSEUM〉
- グラフぐんま
2月号 「永井一正の動物ポスター」〈ギャラリー〉＊
- 広報ぐんま
No.178（3月号） 「群馬県立館林美術館 永井一正の動物

ポスター展」

- 広報めぬま

12、2月号 「永井一正の動物ポスター」〈もよおし〉

- 書道界

1月号 「シリーズ作品がまとめて鑑賞できる 永井一正の動物ポスター」〈ランダム・ハウス〉「永井一正の動物ポスター」〈展覧会情報インフォメーション〉

- すたんぴーど

2月号 「群馬県立館林美術館 特別展示 永井一正の動物ポスター 魅力たっぷりの動物達をごらんあれ！」〈今月のアート〉

- デザインの現場

2月号

- マイ・リトルタウン

No.299 (12月号)、300 (1月号)、302 (3月号) 「特別展示「永井一正の動物ポスター」展」〈美術・展示〉

- 博物館研究

Vol.38 No.11 「特別展示「永井一正の動物ポスター」展」〈特別展〉

Vol.39 No.1 「永井一正の動物ポスター展」〈特別展〉

- ぶらざ

4月号 「永井一正の動物ポスター」〈ぎやらり〜〉

- マンスリーとーぶ

2月号 「永井一正の動物ポスター」〈群馬県立館林美術館〉

- 渡良瀬通信

284 (12月)号〜288 (4月)号 「永井一正の動物ポスター」〈美術館〉

285 (1月)号 「永井一正の動物ポスター」展—群馬県立館林美術館〈TOPICS〉

- B-CLIP

12月号 「永井一正の動物ポスター」〈県内プレイガイド〉

- Deli-J

Vol.37 12.17 「永井一正の動物ポスター」(Event Guide いべんと伝言板)

- 月刊Otome

2、3月号 「永井一正の動物ポスター」〈info-gunma〉

◎放送

[テレビ]

- NHK総合テレビ (関東ローカル)

1.20 「永井一正の動物ポスター」〈こんにちは ずっと6けん〉

[ラジオ]

- FMぐんま

12.24 10:40-45 「特別展示「永井一正の動物ポスター」について」〈ぐんま情報トッピング〉

- FM TARO

12.12 8:20-25 「特別展示「永井一正の動物ポスター」について」〈ぐんまいきいき情報 (出演)〉

12.8、10、11 8:20-25 「特別展示「永井一正の動物ポスター」について」〈ぐんまいきいき情報 (出演)〉

12.24 17:47-51 「特別展示「永井一正の動物ポスター」について」〈FM県政ガイド〉

第1期 6月7日(土)～7月6日(日) 【展示室1のみ4月3日(火)～7月13日(日) (前年度より継続展示)】

展示室1

現代の彫刻Ⅰ 4月3日(火)～7月13日(日)

展示室4

ピカソ、ミロ版画展 6月7日(土)～7月6日(日)

新収蔵作品 6月7日(土)～7月6日(日)

第2期 9月11日(木)～11月30日(日)

展示室1

現代の彫刻Ⅱ 9月11日(木)～11月30日(日)

第3期 12月6日(土)～4月4日(日) (次年度に継続展示)

展示室1

現代の彫刻Ⅲ 12月6日(土)～4月4日(日)

展示室3

田崎草雲と小室翠雲 12月6日(土)～1月12日(月・祝)

小室翠雲と岸浪百艸居 1月15日(木)～2月22日(日)

藤牧義夫 2月25日(水)～4月4日(日)

展示室4

パリへ向かうということ 12月6日(土)～4月4日(日)

※出品作品リストは、原則として、作家の生年順。作家ごとに作品の制作年順。

◎主要関連記事（長文記事は末尾に＊）

[新聞等]

- 上毛新聞
- 12.23 「地域の画家の作品見て 田崎草雲、小室翠雲ら紹介」＊
- 1.11、2.16 「館林美術館テーマ展示「パリへ向かうということ」〈ゆうまちゃんの掲示板〉
- 1.12 「館林美術館テーマ展示「小室翠雲と岸浪百艸居」〈ゆうまちゃんの掲示板〉
- 2.11、3.13、3.19 「館林美術館テーマ展示「藤牧義夫」〈ゆうまちゃんの掲示板〉
- 上毛新聞シャトル（館林ニュース）
- 1.12 「小室翠雲と岸浪百艸居の作品展」〈出かけてみませんか 情報BOX〉
- 1.18 「地元ゆかり南画の大家 県立館林美術館 来月22日まで「小室翠雲と岸浪百艸居」展」＊
- 1.31 「パリの空気楽しむ 4月まで県立館林美術館」＊
- 2.20、2.27、3.1、3.5、3.12、3.16、3.19、3.22、3.26、3.29、4.2 「藤牧義夫」〈出かけてみませんか 情報BOX〉
- 毎日新聞
- 1.22 「素朴な美しさ表現「翠雲百艸居展」開催 館林美術館
- 3.1 「心をあたためる藤牧の版画 館林」
- 3.24 「館林美術館（館林市）「藤牧義夫」」〈Gallery 見る 群馬のミュージアム〉

[定期刊行物]

- 足利漫我人
- 6月号（vol.227）、7月号（vol.228）「ピカソ、ミロ版画展」
- 12月号（vol.232）、1月号（vol.233）「パリへ向かうということ」「田崎草雲と小室翠雲」「小室翠雲と岸浪百艸居」「藤牧義夫」
- 2月号（vol.233）「現代の彫刻Ⅲ」「パリへ向かうということ」「藤牧義夫」
- 3月号（vol.234）「現代の彫刻Ⅲ」「藤牧義夫」「パリへ向かうということ」
- からっ風
- 96号 「テーマ展示「藤牧義夫」」〈Art Museum 2004 美術館情報〉
- ぐんま広報
- 1.1 「館林美術館テーマ展示「小室翠雲と岸浪百艸居」」〈INFORMATION お知らせ〉
- 7.11 「□現代の彫刻 □ピカソ・ミロ版画展」〈イベント・インフォメーション 美術館〉
- 広報めぬま
- 2月号 「藤牧義夫の版画」〈もよおし〉
- マンスリーとーぶ
- 2月号 「現代の彫刻Ⅲ」「小室翠雲と岸浪百艸居」「パリへ向かうということ」〈information EYE〉

- 渡良瀬通信
- 6月号、7月号 「現代の彫刻Ⅰ」「ピカソ・ミロ版画展」
- My City TATEBAYASHI
- 6.12 「□現代の彫刻 □ピカソ、ミロ版画展」〈イベント・インフォメーション 美術・ギャラリー〉

◎放送

- [ラジオ]
- FM TARO
- 3.2 8:20-25 「テーマ展示「藤牧義夫」」〈ぐんまいきいき情報（出演）〉

現代の彫刻 I

平成15年4月3日(木)～7月13日(日) 展示室 1

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵
1	チャーナ・オルロフ	鳥	1924年	ブロンズ	100.5×32.2×30.0	群馬県立館林美術館
2	保山春彦	1m立方体	1970年	ステンレス・スティール	100.0×100.0×100.0	群馬県立近代美術館
3	保山春彦	立方体分割のための習作	1970年	真鍮、ニッケルメッキ	40.2×35.8×36.0	群馬県立近代美術館
4	保山春彦	立方体試作	1971年	真鍮、ニッケルメッキ、石	29.5×30.8×27.9	群馬県立近代美術館
5	保山春彦	ソフィット(天井) A	1977年	銅	31.6×31.5×31.7	群馬県立近代美術館
6	保山春彦	立ち上がる葺舎	1992年	鉄	206.5×212.3×122.0	群馬県立近代美術館
7	土谷 武	無題	1972年	軟鋼	105.0×75.0×160.0	群馬県立近代美術館
8	土谷 武	蝶 I	1993年	軟鋼	147.0×130.0×160.0	群馬県立近代美術館
9	ジム・ダイン	キング・パロット	1995年	ブロンズ	216.0×122.0×112.0	群馬県立館林美術館
10	イサム・ノグチ	リス	1984-88年	ブロンズ板	61.0×46.0×39.0	群馬県立館林美術館
11	バリー・フラナガン	仔象	1984年	ブロンズ	174.5×104.1×62.2	群馬県立館林美術館
12	マリア・ルゴッシー	Dream	1995年	合わせガラス、ブロンズ	29.3×35.4×19.4	群馬県立館林美術館
13	マリア・ルゴッシー	Power of Nature VI	1996年	合わせガラス、サンドブラスト	51.8×28.6×21.8	群馬県立館林美術館

ピカソ、ミロ版画展

平成15年6月7日(土)～7月6日(日) 展示会 4

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)
1	パブロ・ピカソ	ビュフォン「博物館」 鳩 七面鳥 ハイタカ トンボ バツク 伊勢エビ 狼 山羊 ライオン ゴシキヒワ 蝶 スズメバチ	1942年	アクアチント・エッチング・ドライポイント・紙	36.5×28.0
2	パブロ・ピカソ	オノレ・ド・バルザック『知られざる傑作』 (1) 彫刻の前の彫刻家 (2) 二人のモデルの間の画家 (3) 牡牛と馬 (4) 画家と編み物をするモデル (5) 塑像する彫刻家 (6) イーゼルに向かう禿頭の画家 (7) 鉛筆を拾う画家 (8) 制作中の画家 (9) 三人の立つ裸婦 (10) 動物と男たちのエスキースに囲まれ坐る (11) 絵の前の画家 (12) イーゼルの前の画家	1927年 (1931年刊)	エッチング・紙	24.5×32.5
3	パブロ・ピカソ	ロシュ・グレー『真夜中の馬たち』	1956年	エングレーヴィング・紙	31.0×22.0
4	パブロ・ピカソ	ベベ・イーリョ『闘牛技』 表紙 田園の牡牛たち 闘牛場へ クアドリーリヤの入場行進 カバで牡牛をささう 長槍での跳躍 おとなしい牡牛を退場させる誘導牛 槍突き ムレータの技 椅子に座ってバンデリリヤへ牡牛をささう とどめ後、闘牛士が牡牛の死を告げる 牡牛を手槍へとささう 支援者たちの肩に担がれて退場する闘牛士	1957年	エッチング・紙 アクアチント・紙	35.4×50.0 35.0×49.4
5	ジョアン・ミロ	トリスタン・ツアラ『独り語る』	1948-50年	リトグラフ・紙	38.0×28.0

※所蔵はすべて当館

新収蔵作品

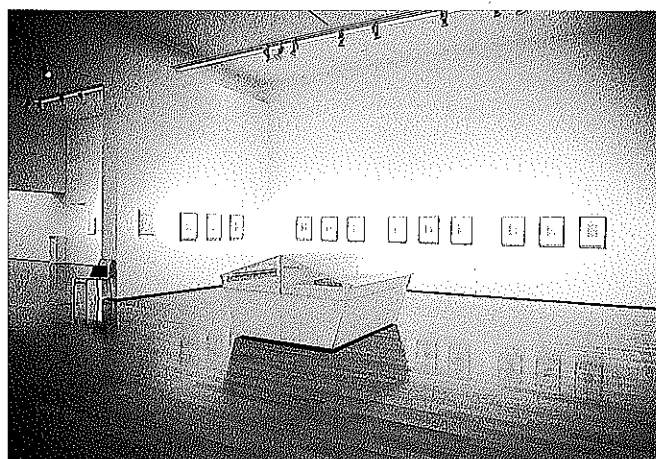
平成15年6月7日(土)～7月6日(日) 展示室4

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)
1	ニルス＝ウド	水の家 (全8点)	1982年	ゼラチン・シルバー・プリント	125×137 (7点)、125×140 (1点)
2	ニルス＝ウド	ナラの葉	1986年	イルフォ・クローム	103×103
3	ベン・ニコルソン	コンポジション 1947年	1947年	油彩・鉛筆・コンテ鉛筆・パネル	45.7×45.7
4	ピエール・アレシンスキー	手探りで	1974年	エッチング・アクアチント・紙	184.8×284.5
5	西村陽平	開館記念特別展示 自然と人間	2002年	紙 (展覧会カタログ)	4.5×28.0×19.0
6	西村陽平	ニルス＝ウド-自然へ 2002	2002年	紙 (展覧会カタログ)	9.5×16.0×13.8

※所蔵はすべて当館



ピカソ、ミロ版画展



新収蔵作品

現代の彫刻Ⅱ

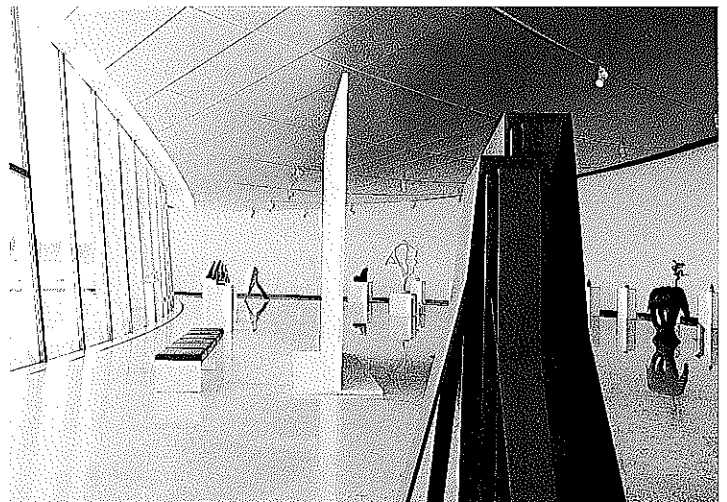
平成15年9月11日(木)～平成15年11月30日(日) 展示室1

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵
1	フランソワ・ボンボン	風見鶏	1908-32年	銅	47.0×54.4×6.0	群馬県立館林美術館
2	フランソワ・ボンボン	牝豚	1918-25年	ブロンズ	11.0×20.0×5.5	群馬県立館林美術館
3	フランソワ・ボンボン	ヒグマ	1918-26年	ブロンズ	9.2×15.8×7.0	群馬県立館林美術館
4	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1921-24年	無釉硬質陶器	20.4×39.4×7.3	群馬県立館林美術館
5	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923年	合金	22.6×44.8×11.0	群馬県立館林美術館
6	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923-33年	大理石	23.6×47.2×13.4	群馬県立館林美術館
7	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1926年	ブロンズ	12.0×23.5×5.0	群馬県立館林美術館
8	ヘンリー・ムーア	母と子	1938年	ブロンズ	11.4×7.4×5.7	群馬県立館林美術館
9	ヘンリー・ムーア	羊	1960年	ブロンズ	19.8×24.0×11.3	群馬県立館林美術館
10	ヘンリー・ムーア	後ろ足で立つ馬	1972年	ブロンズ	20.0×9.0×7.0	群馬県立館林美術館
11	ヘンリー・ムーア	立っている少女	1981年	ブロンズ	23.7×5.9×7.6	群馬県立館林美術館
12	ヘンリー・ムーア	馬の頭部	1982年	ブロンズ	13.6×12.0×6.5	群馬県立館林美術館
13	ヘンリー・ムーア	小さな人体	1983年	ブロンズ	14.2×6.0×5.4	群馬県立館林美術館
14	バーバラ・ヘップワース	アポロン	1951年頃	スチール・ロッド	高さ158.5	群馬県立館林美術館
15	イサム・ノグチ	リス	1984-88年	ブロンズ板	61.0×48.0×39.0	群馬県立館林美術館
16	スタニスラフ・リベンスキー、 ヤロスラヴァ・プリフトヴァ	鳥	1997年	ガラス	72.0×123.0×25.0	群馬県立館林美術館
17	土谷 武	鱗 I	1993年	軟鋼	147.0×130.0×160.0	群馬県立館林美術館
18	保田春彦	立方体分割のための習作	1970年	真鍮、ニッケルメッキ	40.2×35.8×36.0	群馬県立近代美術館
19	保田春彦	立方体試作	1971年	真鍮、ニッケルメッキ、石	29.5×30.8×27.9	群馬県立近代美術館
20	保田春彦	ソフィット(天井) A	1977年	銅	31.6×31.5×31.7	群馬県立近代美術館
21	保田春彦	立ち上がる幕舎	1992年	鉄	206.5×212.3×122.0	群馬県立近代美術館
22	ジム・ダイン	キング・パロット	1995年	ブロンズ	216.0×122.0×112.0	群馬県立館林美術館
23	バリー・フラナガン	仔象	1984年	ブロンズ	174.5×104.1×62.2	群馬県立館林美術館
24	マリア・ルゴッシー	Dream	1995年	合わせガラス、ブロンズ	29.3×38.4×19.4	群馬県立館林美術館
25	マリア・ルゴッシー	Power of Nature VI	1994-96年	合わせガラス、サンドプラスト	51.8×28.6×21.8	群馬県立館林美術館

現代の彫刻Ⅲ

平成15年12月6日(土)～平成16年3月28日(日) 展示室 1

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵
1	フランソワ・ボンボン	ほろほろ鳥	1910-12年	ブロンズ	19.8×23.4×10.7	群馬県立館林美術館
2	フランソワ・ボンボン	牝豚	1918-25年	ブロンズ	11.0×20.0×5.5	群馬県立館林美術館
3	フランソワ・ボンボン	ヒグマ	1918-26年	ブロンズ	9.2×15.8×7.0	群馬県立館林美術館
4	フランソワ・ボンボン	雌鳩	1918年	ブロンズ	24.0×8.7×9.5	群馬県立館林美術館
5	フランソワ・ボンボン	パン	1923年頃	ブロンズ	26.0×29.0×12.0	群馬県立館林美術館
6	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1926年	ブロンズ	12.0×23.5×5.0	群馬県立館林美術館
7	フランソワ・ボンボン	立って頭を下げている インドの牝鹿	1927-28年	ブロンズ	12.5×20.8×8.0	群馬県立館林美術館
8	フランソワ・ボンボン	大黒豹	1930-31年	ブロンズ	25.0×81.0×14.0	群馬県立館林美術館
9	パーバラ・ヘップワース	アポロン	1951年	ブロンズ	高さ158.5	群馬県立館林美術館
10	保田春彦	立方体分割のための習作	1970年	真鍮・ニッケルメッキ	40.2×35.8×36.0	群馬県立近代美術館
11	保田春彦	立方体試作	1971年	真鍮・ニッケルメッキ・石	29.5×30.8×27.9	群馬県立近代美術館
12	保田春彦	ソフィット(天井) A	1977年	銅	31.6×31.5×31.7	群馬県立近代美術館
13	保田春彦	立ち上がる幕舎	1992年	鉄	206.5×212.3×122.0	群馬県立近代美術館
14	土谷 武	蝶 I	1993年	軟鋼	147.0×130.0×160.0	群馬県立館林美術館
15	ジム・ダイン	キング・パロット	1995年	ブロンズ	216.0×122.0×112.0	群馬県立館林美術館
16	イサム・ノグチ	リス	1984-88年	ブロンズ板	61.0×48.0×39.0	群馬県立館林美術館
17	パリー・フラナガン	仔象	1984年	ブロンズ	174.5×104.1×62.2	群馬県立館林美術館
18	マリア・ルゴッシー	Dream	1995年	合わせガラス・ブロンズ	29.3×38.4×19.4	群馬県立館林美術館
19	マリア・ルゴッシー	Power of Nature VI	1994-96年	合わせガラス・サンドブラスト	51.8×28.6×21.8	群馬県立館林美術館
20	スタニスラフ・リベンスキー、 ヤロスラヴァ・プリフトヴァ	鳥	1997年	ガラス	72.0×123.0×25.0	群馬県立館林美術館
21	スタニスラフ・リベンスキー、 ヤロスラヴァ・プリフトヴァ	鳥	1997年	ガラス	72.0×123.0×25.0	群馬県立館林美術館



田崎草雲と小室翠雲

平成15年12月6日(土)～平成16年1月12日(月・祝) 展示室3

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵
1	田崎草雲	《雪景山水図》	明治時代	紙本墨画淡彩・軸	172.1×89.7	群馬県立近代美術館
2		《千山方水図》	明治時代	絹本淡彩・軸	171.4×58.0	群馬県立近代美術館
3		《江山萬籟図》	明治時代	絹本淡彩・軸	141.0×42.8	群馬県立近代美術館
4	小室翠雲	《採蓮蝕禽図》 サイレンシヨウキンズ	1919	絹本着色・軸	170.4×50.1	群馬県立近代美術館
5		《春雨蕨々》 サユウキナナナ	1920	絹本着色・六曲一双屏風	各168.0×373.2	群馬県立近代美術館
6		《夏冬山水図屏風》	1923	絹本墨画淡彩・六曲一双屏風	各167.0×360.0	群馬県立館林美術館



小室翠雲と岸浪百艸居

平成16年1月15日(木)～2月22日(日) 展示室3

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵
1	小室翠雲	トククニヤン 《登嶽所見》「月影」	1928	紙本墨画着色・軸	45.0×45.0	群馬県立近代美術館
2		トククニヤン タロウボ 《登嶽所見》「太郎坊」	1928	紙本墨画着色・軸	45.0×45.0	群馬県立近代美術館
3		ヤンノレイ 《三枝遣》	1936	絹本着色・軸	116.0×145.0	群馬県立近代美術館
4	岸浪百艸居	ヨウナクワ 《露葉霜條》	1934	絹本着色・六曲一双屏風	各196.7×345.6	群馬県立近代美術館
5		《秋處》	1935	絹本着色・六曲一双屏風	各174.0×363.0	群馬県立近代美術館



藤牧義夫

平成16年2月25日(水)～4月4日(日) 展示室3

No. 作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
1 《年賀状(昭和5年)》	1929	木版・紙	14.2×9.3	群馬県立館林美術館	
2 《遠磨》	1933	木版・紙	18.2×21.3	群馬県立館林美術館寄託	
3 《銀座スッポン料理屋》	1933	木版・紙	8.8×13.9	群馬県立館林美術館	
4 《年賀状(昭和9年)》	1933	木版、手彩色・紙	13.9×9.1	群馬県立館林美術館	
5 《井の頭風景》(1934年新版画集団小品展発表)	1934	木版・紙	14.8×16.9	群馬県立館林美術館寄託	
6 《鶴の間の池》	1935	水彩・紙	21.0×18.0	群馬県立館林美術館寄託	
7 《自画像》	制作年未詳	木版、手彩色・紙	17.8×12.6	群馬県立館林美術館	
8 《デザイン画》	制作年未詳	水彩・紙	28.8×23.7	群馬県立館林美術館寄託	
9 《城沼の冬》	制作年未詳	木版・紙	11.2×14.0	群馬県立館林美術館	
10 《朝(自画像)》(『新版画』1号)	1932	木版・紙	12.0×9.7	群馬県立館林美術館	
11 《しねま》(『新版画』7号(特集 演劇と映画))	1932	木版、手彩色・紙	16.0×9.0	群馬県立館林美術館	
12 《島のぢいさん》(『新版画』9号(1周年記念号))	1933	木版、手彩色・紙	14.4×9.4	群馬県立館林美術館	
13 《つき》(『新版画』12号(小品展記念号))	1934	木版・紙	12.7×12.8	群馬県立近代美術館	
14 《まくら橋》(『新版画』14号)	1934	木版、手彩色・紙	12.2×9.2	群馬県立館林美術館	
15 《うらまち》(『新版画』17号(藤牧義夫特集号))	1935頃	木版・紙	15.0×12.0	群馬県立館林美術館	前期
16 《工場(川面)》(『新版画』17号(藤牧義夫特集号))	1935頃	木版・紙	9.5×12.5	群馬県立館林美術館	後期
17 《五月》(『新版画』17号(藤牧義夫特集号))	1935頃	木版・紙	7.0×10.5	群馬県立館林美術館	
18 《彼岸》(『新版画』17号(藤牧義夫特集号))	1935頃	木版・紙	12.0×15.0	群馬県立館林美術館	

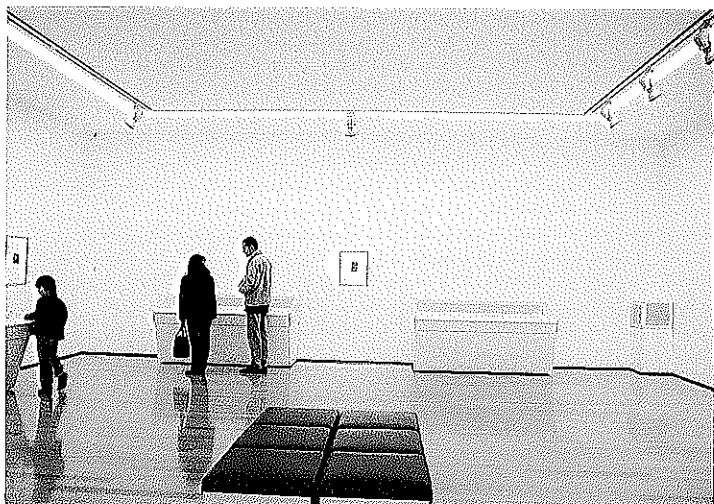
No. 資料名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
1 「《朝(自画像)》作家言」(『新版画』1号)	1932			群馬県立館林美術館	
2 「《鉄版画編集試作》4」(『新版画』9号(1周年記念号))	1933		4.2×5.1	群馬県立館林美術館	前期
3 「《鉄版画編集試作》5」(『新版画』9号(1周年記念号))	1933		2.9×5.2	群馬県立館林美術館	前期
4 「《鉄版画編集試作》7」(『新版画』9号(1周年記念号))	1933		3.8×4.8	群馬県立館林美術館	前期
5 「《鉄版画編集試作》8」(『新版画』9号(1周年記念号))	1933		3.5×5.4	群馬県立館林美術館	前期
6 「《鉄版画編集試作》9」(『新版画』9号(1周年記念号))	1933		2.7×5.2	群馬県立館林美術館	前期
7 「《鉄版画編集試作》10」(『新版画』9号(1周年記念号))	1933		4.0×4.9	群馬県立館林美術館	後期
8 「《鉄版画編集試作》12」(『新版画』9号(1周年記念号))	1933		4.3×6.2	群馬県立館林美術館	後期
9 「表紙(新越事堂とサーチライト)」(『新版画』14号)	1934		20.2×25.8	群馬県立館林美術館	
10 「表紙」(『新版画』17号(藤牧義夫特集号))	1935		20.2×22.6	群馬県立館林美術館	

※展示期間についての表記がある作品、資料のみ展示替え。

前期：2月25日(水)-3月14日(日) 後期：3月16日(火)-4月4日(日)

※作品、資料のタイトルは、オリジナルが旧字の場合もすべて新字表記。

※リストは制作年順または刊行年順であるが、『新版画』発表作品はまとめて記している。



パリへ向かうということーパリで制作された作品を集めて

平成15年12月6日(土)～平成16年4月4日(日) 展示室 4

No.作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
第一次世界大戦前 (～1914)						
1	コンスタン・トロワイヨン 《風景》	19世紀中頃	油彩・板	25.0×45.0	近美	
2	フランソワ・ボンボン 《ポール像》	1884	テラコッタ	38.4×21.1×17.8	館美	
3	《コゼット》	1888	ブロンズ	41.0×18.0×13.0	館美	
4	《サント・カトリヌ》	1894	石膏	41.3×42.8×36.2	館美	B, C
5	久米桂一郎 《プレハの海》	1892	油彩・カンヴァス	47.4×63.4	近美	
6	オディロン・ルドン 《聖アントワヌの誘惑 第三集》	1896	リトグラフ・紙		近美	
	I 聖アントワヌ：助けたまえ神よ！			21.4×13.0		A
	IV 花が散り怪しい蛇の頭が現われる			25.9×19.8		A
	VI …そして彼は乾いた起伏のある平原を見分ける			24.7×19.7		A
	VII …私は孤独のうちに沈んだ 私は私のうしろの本に住んでいた			29.6×22.2		B
	X 叙知は私のものとなった！私は仏陀になったのだ			31.5×21.7		B
	XI …そして頭をもたない目が歌体動物のようにただよっていた			31.0×22.4		B
	XVI アントワヌ：これらすべてのものの目的は何だろう？ 悪魔：目的なんぞありはしない！			30.7×24.8		C
	XIX …稲穂のようなものをしばしば天空に見た			26.5×18.1		C
	XXII ついに陽が昇った…そして太陽の円光の中に イエズス・キリストの顔が輝く			26.4×20.3		C
7	湯浅一郎 《西洋婦人編物》	1907-1909	油彩・カンヴァス	72.5×53.0	近美	
8	《裸婦》	1907-1909	油彩・カンヴァス	81.5×60.9	個人	
9	《婦人像》	1907-1909	油彩・カンヴァス	53.3×43.2	個人	
10	《パリの公園》	1907-1909	水彩、コンテ・紙	22.0×29.0	個人	B
11	《裸体習作》	1908	油彩・カンヴァス	50.7×73.3	個人	
12	《パリのアトリエにて》	1909	油彩・カンヴァス	61.0×61.0	近美	
13	《園中少女》	1909	油彩・カンヴァス	54.5×45.4	個人	
14	《セーヌ河》	1909	コンテ・紙	22.0×29.0	個人	A
15	《リュクサンブール公園》	1909	コンテ・紙	22.0×28.0	個人	C
16	安井曾太郎 《足を洗う女》	1913	油彩・カンヴァス	116.0×89.0	近美	
17	アルベール・マルケ 《赤い背景の裸婦》	1913	油彩・ボード	46.0×65.0	近美	
第一次世界大戦～第二次世界大戦 (1914～1945)						
18	フランソワ・ボンボン 《(クロード・)レイ》	1922	石膏	32.1×17.3×16.5	館美	
19	ジュール・パスキン 《丸椅子に座る長い髪の娘》	1924	油彩・カンヴァス	81.0×64.5	近美	
20	佐伯祐三 《パリ郊外風景》	1924	油彩・カンヴァス	60.5×72.8	近美	
21	ラウル・デュフィ 《ポール・ヴィヤール博士の肖像》	1927-33	油彩・カンヴァス	114.5×110.0	近美	
22	高島達四郎 《婦人像》	1927	油彩・カンヴァス	82.0×73.0	近美	
23	南城一夫 《鯛の静物》	1927	油彩・カンヴァス	72.8×91.0	近美	
24	《L氏像》	1935	油彩・カンヴァス	24.0×13.8	近美	
25	国吉康雄 《梨と葡萄》	1928	リトグラフ・紙	20.3×27.9	近美	A
26	《鉄道》	1928	リトグラフ・紙	26.0×21.8	近美	A
27	福沢一郎 《怖るべき子供》	1930	油彩・カンヴァス	60.0×81.0	近美	
28	《科学美を盲目にする》	1930	油彩・カンヴァス	130.3×162.1	近美	
29	田中佐一郎 《人物》	1932	油彩・カンヴァス	80.5×100.0	近美	
30	山口薫 《パリの画室から》	1932	油彩・カンヴァス	80.5×65.2	近美	
31	《路傍のキリスト像 (ブルターニュ)》	1932	油彩・カンヴァス	72.7×60.6	近美	
32	《寝た裸婦》	1932	油彩・カンヴァス	61.0×73.0	近美	
33	《神話》	1932	油彩・カンヴァス	91.0×65.0	近美	
第二次世界大戦後 (1945～)						
34	モイーズ・キスリング 《青い花瓶のミモザ》	1948	油彩・カンヴァス	62.0×74.0	館美	
35	フェルナン・レジェ 《花々の中の鳥》	1953	ブロンズ	43.0×35.0×5.0	館美	
36	南桂子 《鳥と花》	1957	カラーエッチング・紙	57.0×37.6	館美	I
37	《細い木》	1960	カラーエッチング・紙	57.0×38.2	館美	II
38	《巣と鳥》	1961	カラーエッチング・紙	56.4×38.2	館美	I
39	《2つの町》	1961	カラーエッチング・紙	56.2×38.0	館美	II

No. 作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	所蔵	展示期間
40	《林の中の鳥》	1961	カラーエッチング・紙	56.6×38.0	館美	II
41	《落葉の上の鳥》	1963	カラーエッチング・紙	37.8×56.6	館美	I
42	《2本の樹木》	1963	カラーエッチング・紙	56.0×37.6	館美	I
43	《村落の牝牛》	1963	カラーエッチング・紙	56.4×38.0	館美	I
44	《冠鳥》	1964	カラーエッチング・紙	56.4×37.8	館美	II
45	《赤い魚》	1964	カラーエッチング・紙	37.6×56.2	館美	II
46 今井俊満	《東方の光》	1962	油彩・カンヴァス	194.5×268.0	近美	
47 マルク・シャガール	《ポエム》	1962-67 (1968 刊)		32.2×24.7		
	III		木版、コラージュ(紙)・ 紙			B
	XVI		木版、コラージュ(布)・ 紙			B
	XVII		木版、コラージュ(布)・ 紙			C
	XVIII		木版、コラージュ(紙)・ 紙			C
48 菅井汲	《スクランブルB》	1976	凸版、シルクスクリー ン・紙	25.0×35.5	近美	B
49	《スクランブルC》	1976	凸版、シルクスクリー ン・紙	35.5×25.0	近美	B
50	《スクランブルD》	1976	凸版、シルクスクリー ン・紙	35.5×25.0	近美	B
51	《スクランブルE》	1976	凸版、シルクスクリー ン・紙	35.5×25.0	近美	B
52	《スクランブルG》	1976	凸版、シルクスクリー ン・紙	24.0×35.5	近美	B
53	《ポートレートB》	1976	リトグラフ・紙	36.0×28.0	近美	C
54	《ポートレートC》	1976	リトグラフ・紙	36.0×28.0	近美	C
55	《ポートレートD》	1976	リトグラフ・紙	36.0×28.0	近美	C
56	《ポートレートF》	1976	リトグラフ・紙	39.5×26.0	近美	C
57	《ポートレートG》	1976	リトグラフ・紙	25.5×39.5	近美	C
58	《シグナルB》	1976	シルクスクリーン・紙	31.5×23.0	近美	A
59	《シグナルD》	1976	シルクスクリーン・紙	31.5×22.0	近美	A
60	《シグナルE》	1976	シルクスクリーン・紙	34.5×18.5	近美	A
61	《シグナルF》	1976	シルクスクリーン・紙	33.0×23.5	近美	A
62	《シグナルG》	1976	シルクスクリーン・紙	31.5×22.0	近美	A
63 木村忠太	《風景・噴水》	1980	油彩・カンヴァス	130.0×162.0	近美	
64 ジャン=ミシェル・ムーリス	《トスカニア1》	1990	アクリル、パステル・カン ヴァス	200.0×200.0	館美	
65	《トスカニア4》	1990	アクリル、パステル・カン ヴァス	200.0×62.0	館美	

※所蔵

館美：群馬県立館林美術館

近美：群馬県立近代美術館

※展示期間

I期：平成15年12月6日(土)~平成16年2月1日(日)

II期：2月4日(木)~4月4日(日)

A：平成15年12月6日(土)~平成16年1月12日(月・祝)

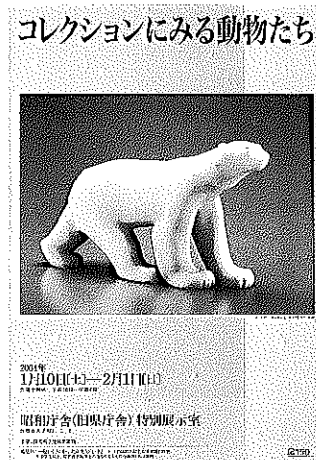
B：1月15日(木)~2月22日(日)

C：2月25日(水)~4月4日(日)



コレクションに見る動物たち

会期 平成16年1月10日(土)～2月1日(日)
 会場 群馬県庁・昭和庁舎特別展示室
 主催 群馬県教育委員会文化課・群馬県立館林美術館
 観覧料 一般100円、大高生50円



チラシ

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	大きさ
1	フランソワ・ボンボン	ラクダ	1906-30	ブロンズ	15.6×23.0×6.0
2	フランソワ・ボンボン	風見鶏	1908-32	銅	47.0×54.4×6.0
3	フランソワ・ボンボン	フクロウ	1923	ブロンズ	17.7×7.9×8.2
4	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923-33	白色大理石	23.6×47.2×13.4
5	パブロ・ピカソ	ビュフォン『博物誌』 (全31点より)	1942	アクアチント、エッチング、 ドライポイント・紙	
5-1		ロバ			28.8×23.5
5-2		牛			28.0×21.8
5-3		犬			29.6×24.0
5-4		鹿			27.5×21.0
5-5		シロワシ			27.2×22.6
5-6		ダチョウ			27.0×21.8
5-7		雄鶏			27.0×21.0
5-8		蜘蛛			27.2×21.2
5-9		ヒキガエル			28.0×22.2
5-10		カエル			27.2×21.6
6	チャーナ・オルロフ	魚／噴水	1929	ブロンズ	40.7×40.5×13.3
7	マックス・エルンスト	外壁のマスク	1948	ブロンズ	23.8×38.6×19.2
8	ヘンリー・ムーア	羊	1960	ブロンズ	19.8×24.0×11.3
9	ヘンリー・ムーア	後ろ足で立つ馬	1972	ブロンズ	20.0×9.0×7.0
10	ヘンリー・ムーア	動物園の動物たち (全13点より)	1981-82	エッチング・紙	
10-1		象	(1983刊)		10.0×12.5
10-2		サイ			21.6×27.9
10-3		ラクダ			21.2×27.8
10-4		豹			25.0×19.5
10-5		トラ			19.2×24.0
11	ヘンリー・ムーア	馬の頭部	1982	ブロンズ	13.6×12.0×6.5

※作家の生年順に並べ、作家ごとに制作年順に記した。
 ※所蔵はすべて当館

◎主要関連記事（長文記事は末尾に＊）

[新聞等]

• 上毛新聞

1.11 「ピカソ、ムーア…作家5人が動物を表現 県立館林美術館コレクション 県庁昭和庁舎で展示 彫刻9点と版画15点紹介」＊

• 毎日新聞

1.21 「県庁昭和庁舎特別展示（前橋市）「コレクションにみる動物たち（館林美術館）」〈Gallery 見る群馬のミュージアム〉

◎放送

[テレビ]

• 群馬テレビ

1.10 〈ニュース〉

F 観覧者数一覧表

コレクション展示

	有料観覧者						無料観覧者						観覧者 合計
	個人			団体			有料 合計	小中 生	学校 団体	身体障 害者等	その他	無料 合計	
	一般	大高生	小計	一般	大高生	小計							
福沢一郎の世界 6/7～7/6 26日	2,280	129	2,409	309	0	309	2,718	150	150	113	347	760	3,478
永井一正の動物ポスター 12/6～3/31 92日 (展示は平成16年度 4月4日まで継続)	6,165	329	6,494	434	52	486	6,980	653	374	245	1,197	2,469	9,449
その他の期間 37日	1,555	48	1,603	292	0	292	1,895	118	20	124	159	421	2,316
コレクション展示 計155日	10,000	506	10,506	1,035	52	1,087	11,593	921	544	482	1,703	3,650	15,243

企画展示

みどりのちから 4/12～5/25 41日	4,556	178	4,734	443	257	700	5,434	374	43	266	1,378	2,061	7,495
動物、アートとなる 7/19～9/7 44日	4,261	295	4,556	177	36	213	4,769	1,724	58	188	1,916	3,886	8,655
フィンランドの美術 9/20～11/24 57日	5,161	340	5,501	754	39	793	6,294	448	104	327	4,024	4,903	11,197
企画展示 計142日	13,978	813	14,791	1,374	332	1,706	16,497	2,546	205	781	7,318	10,850	27,347
合計	23,978	1,319	25,297	2,409	384	2,793	28,090	3,467	749	1,263	9,021	14,500	42,590

平成15年度分の総観覧者数は、42,590人である。

昭和庁舎特別展示

コレクションに見る 動物たち 1/10～2/1 23日													645
-----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----

A 講演会

開催日	名称 演題	講師	会場	参加者数
4.20	記念講演会 「植物学と植物画」	大場秀章 (東京大学総合研究博物館教授)	講堂	57
7.20	記念講演会 「動物、アートとなる」	木島俊介 (当館館長)	講堂	20
9.20	記念講演会 「フィンランドの美術」	テイヤ・モノネン (ヘルシンキ市立美術館学芸員)	講堂	56

B | 作品解説会・ギャラリートーク

1. 学芸員による作品解説会

開催日	展示の名称	解説者	会場	参加者数
4.22	みどりのちから★	松下由里	展示室	2
4.23	みどりのちから	松下由里	展示室	7
5.17	みどりのちから	松下由里	展示室	25
6.10	福沢一郎の世界★	中田宏明	展示室	4
7.29	動物、アートとなる★	神尾玲子	展示室	11
7.30	動物、アートとなる	神尾玲子	展示室	16
8.10	動物、アートとなる	神尾玲子	展示室	7
9.21	フィンランドの美術	伊藤佳之	展示室	54
10.1	フィンランドの美術	伊藤香織	展示室	9
11.2	フィンランドの美術	伊藤佳之、伊藤香織	展示室	30
11.11	フィンランドの美術★	伊藤香織	展示室	3
3.2	永井一正の動物ポスター★	中田宏明	展示室	1

★印は教職員のための作品解説会

2. サンデー・ギャラリートーク

開催日	解説者	会場	参加者数
6.8	伊藤佳之	展示室	15
6.22	中田宏明	展示室	22
12.14	中田宏明	展示室	9
12.28	中田宏明	展示室	4
1.11	中田宏明	展示室	21
1.25	神尾玲子	展示室	2
2.8	神尾玲子	展示室	8
2.22	松下由里	展示室	8
3.14	徳江庸行	展示室	8
3.28	松下由里	展示室	1

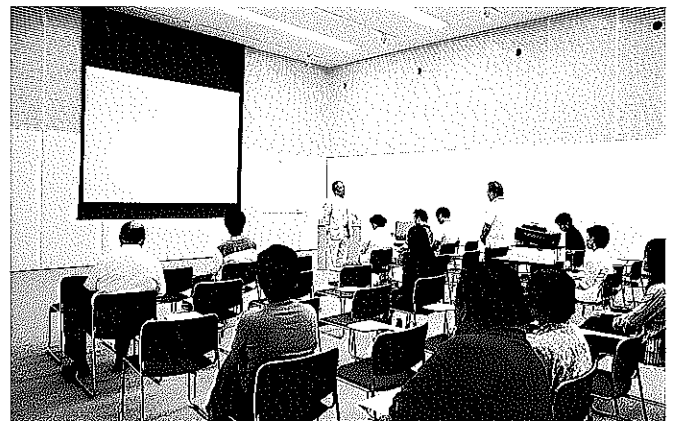
3. 子どもギャラリートーク

開催日	解説者	会場	参加者数
4.19	松下由里	展示室	3
4.26	中田宏明	展示室	2
5.3	伊藤佳之	展示室	4
5.10	神尾玲子	展示室	1
5.24	伊藤佳之	展示室	2
7.5	中田宏明	展示室	1
7.19	神尾玲子	展示室	3
8.2	伊藤香織	展示室	2
8.9	中田宏明	展示室	4
8.16	伊藤香織	展示室	5
8.23	中島幸子	展示室	2
8.30	神尾玲子	展示室	4
9.27	伊藤香織	展示室	1
10.4	中島幸子	展示室	4
11.1	神尾玲子	展示室	3
11.3	中島幸子	展示室	1
12.13	伊藤香織	展示室	1
1.10	伊藤香織	展示室	1
3.27	中田宏明	展示室	3

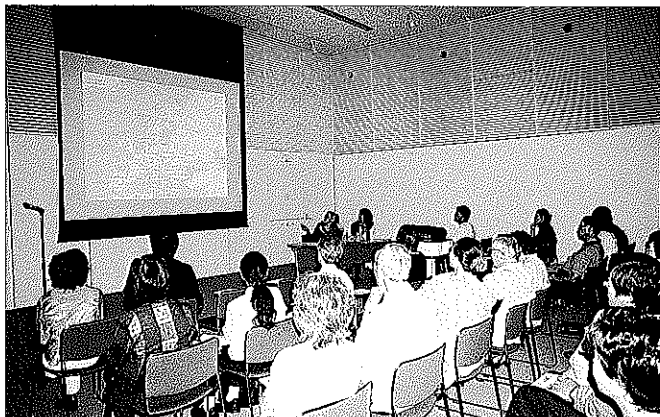
※参加者のあった回のみ記した。



記念講演会「植物学と植物画」



記念講演会「動物、アートとなる」



記念講演会「フィンランドの美術」



学芸員による作品解説会

C | ワークショップ

開催日	名称	講師	会場	参加者数
4.26-27	1. みどりと出会う	押江千衣子 （「みどりのちから」展出品作家）	みかも山公園、ワーク ショップ室、展示室	14
5.24	2. ボタニカル・アート（植物細密画）に挑戦	豊田路子（植物画家）	ワークショップ室、 展示室	18
5.25	2. ボタニカル・アート（植物細密画）に挑戦	豊田路子（植物画家）	ワークショップ室、 展示室	20
8.3	3. ふしぎ動物をつくろう！	ミヤタケイコ （「動物、アートとなる」展出品作家）	ワークショップ室、 展示室	27
8.24	4. 公開制作+アーティストトーク 「動物の彫刻が生まれるまで」	三沢厚彦 （「動物、アートとなる」展出品作家）	ワークショップ室、 展示室	28
11.22-23	5. ハクチョウ観察隊	伊藤佳之、中島幸子	多々良沼周辺、ワーク ショップ室、展示室	9
1.17-18	6. リトグラフ（石版画）にチャレンジ	大沼正昭、松木太郎、久後育大 （版画家）	ワークショップ室、 展示室	20

1. みどりと出会う

展覧会の出品作家で主に植物や風景の絵画を制作している押江千衣子を講師に招き、植物をモチーフに作品制作を館外の公園と館内の施設で行った。

2. ボタニカル・アート（植物細密画）に挑戦

植物画家の豊田路子を講師に招き、身近な植物を透明水彩によるボタニカル・アートの手法によって細密に描いた。

3. ふしぎ動物をつくろう！

展覧会の出品作家で動物をモチーフにした立体作品を制作しているミヤタケイコを招き、不思議なぬいぐるみ状の生き物を作家の制作手法によって制作した。

4. 公開制作+アーティストトーク「動物の彫刻が生まれるまで」

展覧会の出品作家で動物を木彫で制作している三沢厚彦を招き、出品作品や近年のドローイングについてトークを行った。また、おおよそ形がとられた作品をチェーンソーやノミなどを使って実際に制作する現場を公開した。

5. ハクチョウ観察隊

美術館近くにある多々良沼に飛来するハクチョウや周辺の自然を観察した体験を、カラー粘土や水彩絵の具をつかって作品を制作した。

6. リトグラフ（石版画）にチャレンジ

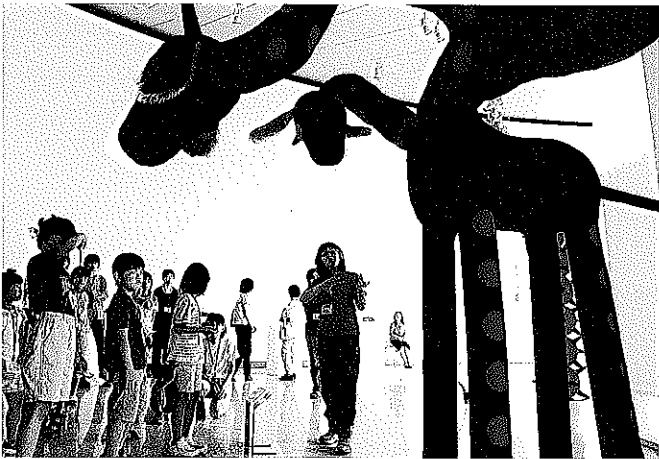
現代版画家を講師に招き、版画のしくみが理解しにくいといわれているリトグラフ（石版画）の技法を、作品制作をとおして理解を深めた。



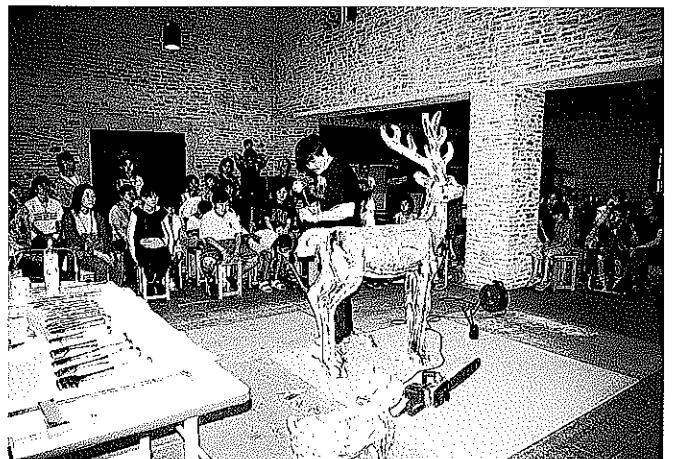
1. ワークショップ「みどりと出会う」



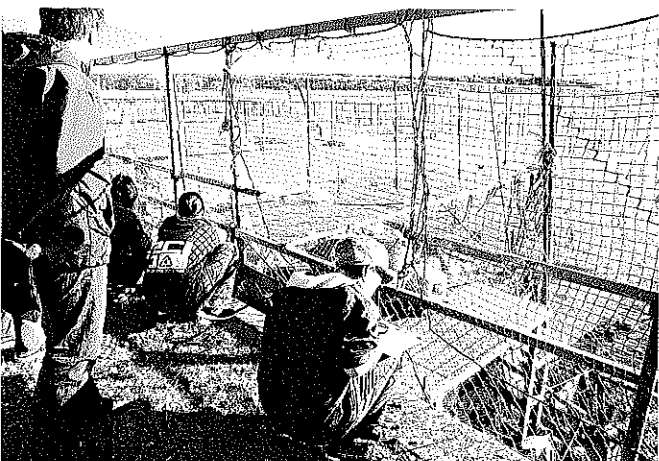
2. ワークショップ「ボタニカル・アート（植物細密画）に挑戦」



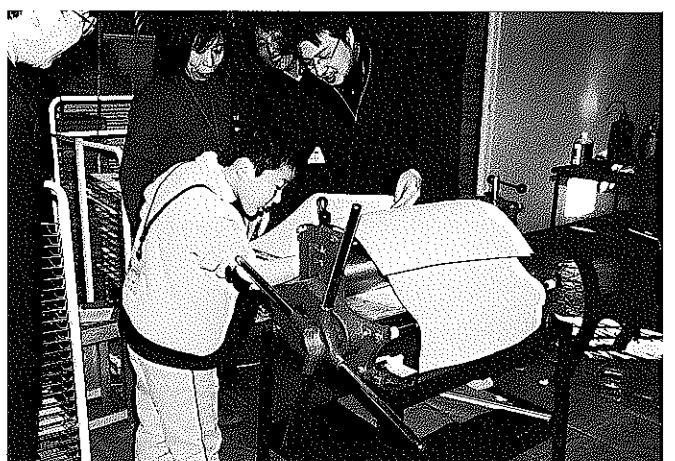
3. ワークショップ「ふしぎ動物をつくろう！」



4. 公開制作+アーティストトーク「動物の彫刻が生まれるまで」



5. ワークショップ「ハクチョウ観察隊」



6. ワークショップ「リトグラフにチャレンジ」

D 創作体験コーナー みんなのアトリエ

展覧会「動物、アートとなる」期間中に、カラー粘土によって小さな動物をつくる「創作体験コーナー みんなのアトリエ」を、7月24日～9月4日の毎週木曜日、計7回開催し、合計341名が参加した。

E 美術講座

1. 「フィンランドの美術」展関連講座

開催日	名称	講師	会場	参加者数
10.5	フィンランドの自然と神話	橋本ライヤ(東海大学北欧学科講師)	講堂	75
10.26	フィンランドの音楽	はざた雅子(カンテレ演奏家)	講堂	77
11.9	フィンランドの美術	本橋弥生 (国立新美術館設立準備室研究員)	講堂	43

2. アーティストとその時代

開催日	名称	講師	会場	参加者数
1.31	ボンボンとフランス近代彫刻	神尾玲子	講堂	22
2.14	キスリングとエコール・ド・パリ	伊藤香織	講堂	19
2.28	ウォーホルとポップアート	中田宏明	講堂	24
3.13	永井一正とグラフィックアート	永井一正(グラフィックデザイナー) 一)、木島俊介(当館館長)	講堂	82



創作体験コーナー みんなのアトリエ



美術講座 アーティストとその時代「永井一正とグラフィックアート」

F ミュージアム・オリエンテーリング GMAT 探検隊

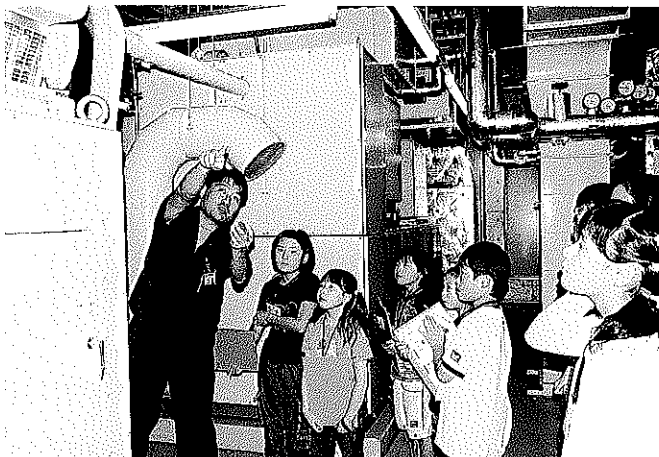
小学3年生から中学生までを対象に、クイズ形式のワークシートを使いながら美術館内を巡り、美術館と展示作品に親しんだ。

開催日	名称	講師	会場	参加者数
7.6	美術館の七不思議	中島幸子	美術館	20
9.7	美術館のうらがわ探検	中島幸子	美術館	8

G 子どもミュージアム・スクール

昨年に引き続き、小学3年生から中学2年生までを対象に、美術鑑賞やワークショップなどの体験を月1回、年間を通して8回連続で行う「子どもミュージアム・スクール」を開催した。この事業は、多彩な美術の体験を継続的に行うことによって、美術館と美術作品に親しみ理解と深めることを目的としている。講師は、中島幸子ほか当館職員が担当した。

開催日	時間	名称	内容	参加者数
5.18	10:30-16:00	開校式、「みどりのちからを感じよう！」	展示会鑑賞、作品制作	7
6.29	10:30-16:00	ワークショップ「動物の国計画その1」	展示会鑑賞、<動物かたちさがしゲーム>、作品制作	8
7.20	10:30-16:00	ワークショップ「動物の国計画その2」	展示会鑑賞、作品制作	7
8.24	13:30-16:30	公開制作+アーティストトーク	「動物の彫刻が生まれるまで」講師：三沢厚彦（出品作家）	7
9.28	13:30-16:30	ワークショップ「展示室観察日記ーフィンランドの美術」	展示会鑑賞、作品制作	6
10.19	13:30-16:00	ワークショップ「作品を見る、聞く、話す」	展示会鑑賞、<かたち発見ゲーム このかたちはこれ！> <作品推理ゲーム 背中のはどれだ？><絵かきゲーム 聞くとはおちがいがい>	6
11.16	10:30-16:00	ワークショップ「ハクチョウ観察隊ー多々良の自然にふれる」	自然観察、展示会鑑賞、作品制作	5
12.7	13:00-16:30	美術館訪問「大川美術館をたずねる」	展示会鑑賞、修了式	8



GMAT 探検隊「美術館のうらがわ探検」



子どもミュージアム・スクール

H 学校連携その他

当館では、学校との連携に力を入れた活動を目指しているため、学校からの要望に可能な限り応え、研究授業の受け入れや、学校の授業における連携などを行った。また、解説を希望する団体については、観覧前に概要説明を行った。

1 学校との連携事業

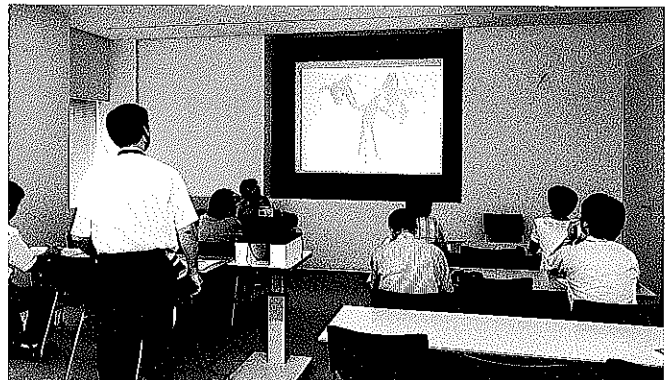
開催日	名称	学校名、学年	講師	会場	参加者数
5.16	わたしたちのまちみんなのまち	太田市立鳥之郷小学校3年	伊藤佳之、神尾玲子、中島幸子	展示室、講堂	43
6.24	総合学習	館林市立第一小学校5年	上野訓只	研修室	16
6.26	作品鑑賞	群馬県立館林女子高等学校3年	伊藤佳之	展示室、研修室	7
8.22	職場体験	館林市立第二中学校	神尾玲子	展示室、情報コーナー他	2
9.11	職場見学	群馬県立西邑楽高等学校2年	伊藤佳之、神尾玲子	研修室	30
9.18	バリアフリー探検	館林市立第八小学校4年	上野訓只	研修室	21
10.2	美術館運営について	館林市立多々良中学校	上野訓只	事務室	2
10.5	美術館運営について	館林市立多々良中学校	上野訓只	事務室	2
10.15	総合学習（職場体験学習）	群馬県立西邑楽高等学校2年	伊藤佳之、神尾玲子	研修室、展示室他	17
11.13	チャレンジ・スクール	伊勢崎市立北第二小学校6年	神尾玲子	研修室、展示室	7
11.13	総合学習	館林市立多々良中学校1年	岡部王二、神尾玲子	展示室、情報コーナー他	10
1.21	作品鑑賞	館林市立第五小学校3年	伊藤佳之、神尾玲子、中島幸子	講堂、展示室	74
2.25	美術鑑賞	板倉町立北小学校6年	伊藤佳之、神尾玲子、中島幸子	講堂、展示室	35
3.11	美術館見学（図画工作）	館林市立第七小学校4年	伊藤佳之、神尾玲子、中島幸子	講堂、展示室	48

2. 研修等の受け入れ

開催日	名称	学校名、学年	講師	会場	参加者数
8.9	美術館で作品との出会わせ方を考えよう	群馬県総合教育センター研修	伊藤佳之、神尾玲子	研修室、展示室	11

3. 団体観覧者への解説

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	3	5	11	3	5	7	13	12	4	4	5	4	76
人数	109	206	350	43	104	159	525	318	67	137	174	196	2,388



学校連携（教職員研修）

I 刊行物

(展覧会関連のものは、各展覧会の項に記載)

◎GMAT NEWS (A4判、4頁、発行部数8,000部)

GMAT NEWSは、企画展示やコレクション展示、講演、ワークショップ、ギャラリートークなどの館行事の紹介や、所蔵品の解説などによって内容を構成している。館の事業の広報をはかるとともに、美術及び美術館に対する県民の理解を深めることを目的として、年4回発行。

● GMAT NEWS 07 平成15年6月1日発行

表紙 親子のための美術展 動物、アートとなる 出品作品紹介

三沢厚彦《Animal 2002-07》2002年

企画展のご案内 親子のための美術展 動物、アートとなる

関連事業

特別展示のご案内 福沢一郎の世界 6月7日(土)～7月6日(日)

コレクション展示のご案内 ピカソ、ミロ版画展 6月7日(土)～7月6日(日)

次回企画展のご案内 フィンランドの美術 神話が息づく自然の国

9月20日(土)～11月24日(月・振休)

ワークショップ・レポート 「みどりと出会う」より

友の会だより ミュージアムショップ近況



● GMAT NEWS 08 平成15年9月1日発行

表紙 フィンランドの美術 神話が息づく自然の国 出品作品紹介

アクセリ・ガレン=カッレラ《クッレルボの呪い》

企画展示のご案内 フィンランドの美術 神話が息づく自然の国

関連事業

特別展示のご案内 永井一正の動物ポスター 12月6日(土)～3月28日(日)

展示作品紹介 保田春彦《立ちあがる幕舎》

関連講座、ワークショップ参加者募集のお知らせ 「フィンランドの

美術」展 関連講座、ワークショップ「ハクチョウ観察隊」

友の会だより 10月会員を募集します



● GMAT NEWS 09 平成15年12月1日発行

表紙 永井一正の動物ポスター 出品作品紹介

永井一正《JAGDAポスター展"JAPAN" (カエル)》

特別展示のご案内 永井一正の動物ポスター

展示のご案内 現代の彫刻Ⅲ、パリへ向かうということーパリで制作

された作品を集めて、田崎草雲と小室翠雲／小室翠雲と岸浪百艸居

美術講座、サンデー・ギャラリートーク参加者募集のお知らせ

美術講座「アーティストとその時代」、サンデー・ギャラリートーク

友の会だより ニューイヤーコンサートののお知らせ、ミュージアムツ

アー報告 (9月12日)



● GMAT NEWS 10 平成16年3月1日

表紙 20世紀版画芸術の精華ーピカソ、マティスからウォーホルまで

ー出品作品紹介

企画展のご案内 「20世紀版画芸術の精華ーピカソ、マティスからウォー

ホルまでー」

テーマ展示のご案内

藤牧義夫 2月25日(水)～4月4日(日)

夏の企画展のご案内 木でつくる美術 6月26日(土)～9月5日(日)

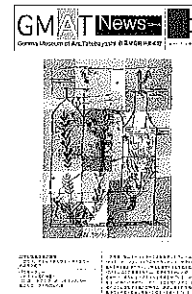
友の会だより 4月会員を募集しております、ニューイヤーコンサート報告

関連事業参加者募集のお知らせ 「20世紀版画芸術の精華」展記念講

演会、技法デモンストレーション「版画のつくりかたを見る」

子どもミュージアム・スクール

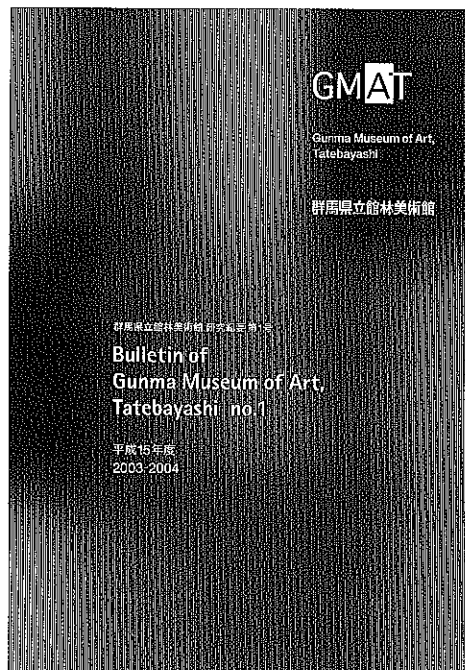
お申し込み・お問合せ先



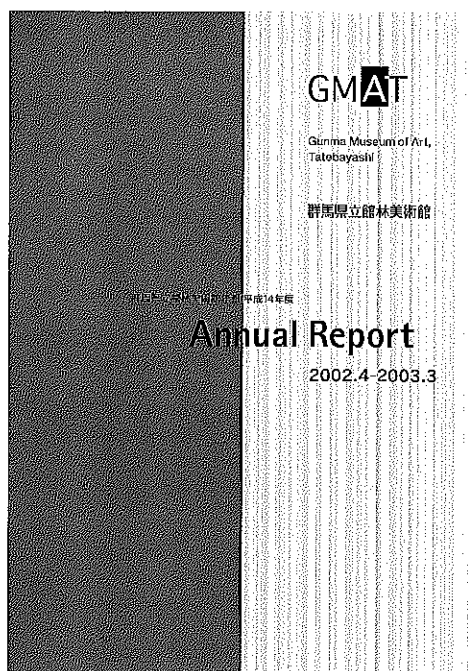
◎群馬県立館林美術館平成16年度事業案内
 B4変形 3つ折り
 平成15年3月発行
 発行部数30,000部



◎群馬県立館林美術館平成15年度研究紀要
 A4判 32頁
 平成16年3月発行
 発行部数1,000部



◎群馬県立館林美術館平成14年度年報
 A4判 72頁
 平成16年3月発行
 発行部数1,000部



J ボランティア

「動物、アートとなる」における「創作体験コーナー みんなのアトリエ」開催時に、作業補助ボランティアを募集した。

期日	名称	人数
H15.7.24-9.4	「創作体験コーナー みんなのアトリエ」作業補助ボランティア	8

K 友の会（群馬県立館林美術館友の会）

1. 運営会議

- (1) 総会（7月19日）
- (2) 理事会（7月19日）；会運営の方針、役員改選等重要事項の審議
- (3) 運営委員会（4回、6月11日、7月19日、10月23日、11月7日）；事業の運営企画等具体的事業の協議

2. 美術館協力支援事業

- (1) ミュージアム・ショップの運営（4月～3月、12ヶ月）；展覧会図録、ポストカード、美術関係書籍その他の展示販売とおし、来館者へのサービスに努めた。
- (2) 美術館支援；美術館活動に必要な図書の寄贈。（日本美術院百年史、全国博物館総覧全4巻、復刻版 東洋画題総覧）
- (3) 「フィンランドの美術－神話が息づく自然の国－」開催に伴い、オープングレセプションの支援。

3. 会員対象事業

- (1) 美術館情報の提供；4回。会員に対し、「GMAT News」、展覧会・美術館事業の広報資料を送付。
- (2) ミュージアムツアーの開催；美術の鑑賞と会員相互の親睦を深めた。参加者数48名。
訪問先：茨城県近代美術館、水戸芸術館、笠間日動美術館、春風萬里荘
- (3) ニューイヤー・コンサート（1月9日）；音楽の鑑賞（ピアノ）と会員相互の親睦を深めた。参加者数113名。出演者：齋藤香織

1. 作品収蔵状況 平成16年3月31日現在

作家区分 収蔵方法	県内作家			国内作家			外国作家			総計
	購入	寄贈	小計	購入	寄贈	小計	購入	寄贈	小計	
部門										
日本画	1	0	1	1	0	1	0	0	0	2
油彩その他	3	0	3	6	0	6	6	0	6	15
水彩・素描	0	0	0	1	0	1	8	0	8	9
版画	0	0	0	248	145	393	32	0	32	425
写真	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
彫刻	0	0	0	2	2	4	124	0	124	128
染織・工芸	0	0	0	3	0	3	4	0	4	7
計	4	0	4	261	147	408	176	0	176	588

2. 平成15年度 収蔵作品

平成15年度においては、日本画1点（購入1点）、油彩その他3点（購入3点）、彫刻2点（購入2点）の計7点を新たに収蔵した。以下、各区分ごとに日本人作家、外国人作家の順番に分け、前者は50音順、後者はアルファベット順に配列している。

各作品データは、以下の順に記す（版画等は、共通するデータを最初に記す）。

- ・ 作者名（生没年）
- ・ 作品名
- ・ 制作年（日本人作家の場合は元号も付す）
- ・ 技法・材質（・形状）
- ・ 寸法（平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行き、単位はcm、版画作品は原則としてイメージサイズを示す）
- ・ サイン、年記、その他の記載事項（版画作品の場合は原則として限定番号を記す）
- ・ 発表展覧会および受賞記録
- ・ 受入種別（寄贈の場合は寄贈者名を併記）
- ・ 受入番号

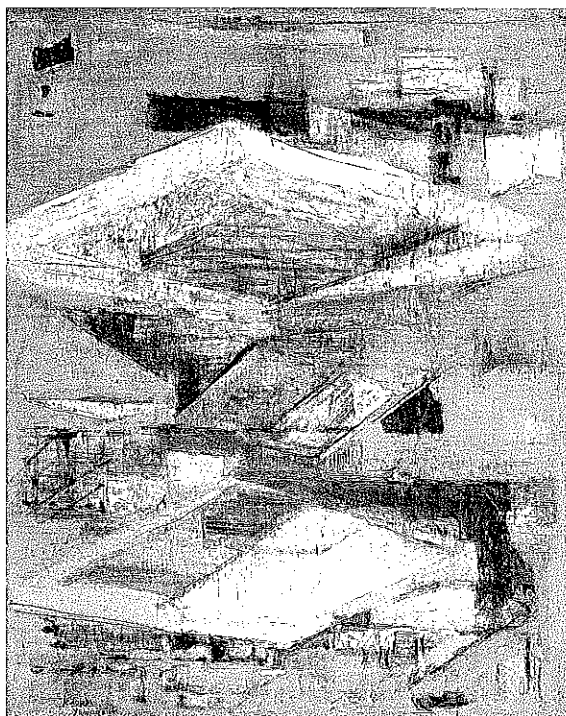
<日本画>

酒井三良 (1897~1969)
SAKAI Sanryo
梨畑
1923 (大正12) 年
絹本彩色・軸
82.5×101.2
落款：画面右下「三良畫」
印章：朱文方印「三良畫印」
再興第10回日本美術院展 (1923年)
購入
584



<油彩その他>

山口薫 (1907~1968)
YAMAGUCHI Kaoru
水田を拓く
1956 (昭和31) 年
油彩・カンヴァス
100.0×80.5
作品左下に署名「Kaoru Yamaguchi」
裏面に作品名「水田を拓く」、制作年「1956」、署名「山口薫」
第6回モダンアート展 (1956年)
購入
585



脇田和 (1908～)

WAKITA Kazu

花苑

2001 (平成13) 年

油彩・カンヴァス

97.0×130.0

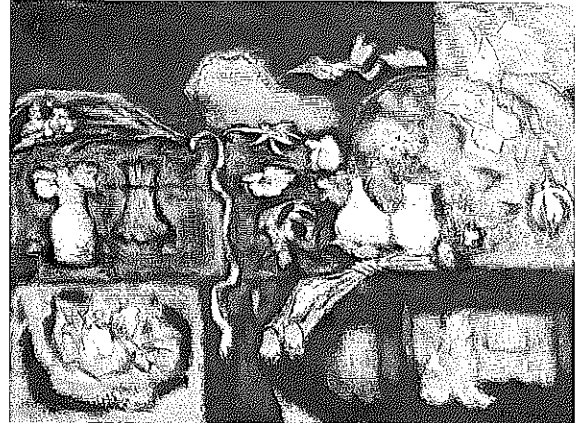
画面右下にサイン

裏面に作品名「花苑」、作者名「脇田和」、制作年「2001」

第67回新制作協会展 (2003年)

購入

586



野見山曉治 (1920～)

NOMIYAMA Gyoji

1997 (平成9) 年

油彩・カンヴァス

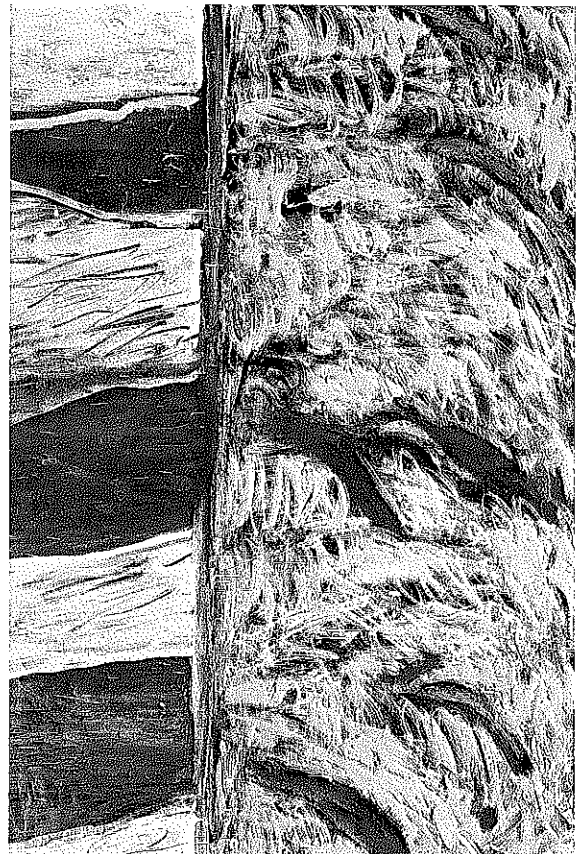
194.0×131.0

裏面に「一九九七年 その時 野見山曉治」と記載

購入

野見山曉治展 (2002年)

587



<彫刻>

トム・シャノン (1947~)

Tom Shannon

ドルフィン・ファイ

Dolphin Phi

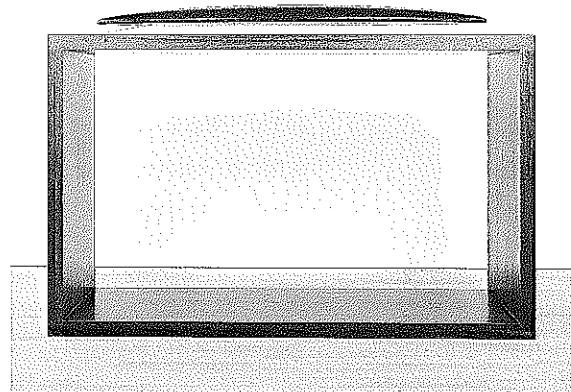
2003年

木、磁石、ワイヤー

154.0×226.0×86.0

購入

583



アーブラハム=ダーフィット・クリスティアン (1952~)

Abraham David Christian

清らかな人 XI

Der Heilige Mensch XI

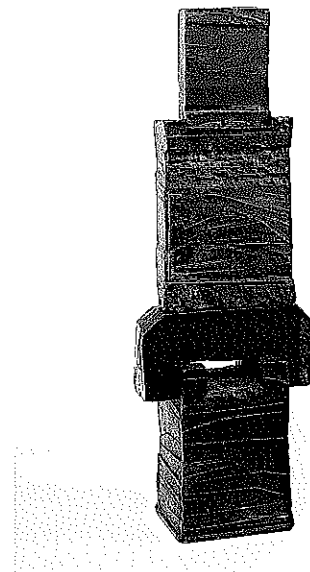
1982年 (鋳造年: 1986年)

ブロンズ

166.2×57.8×28.0

購入

588



3.平成15年度 寄託作品

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行cm)
草間彌生	無限の網 宇宙にかえる個々の周辺	1989	油彩・カンヴァス	162.2×130.4
草間彌生	Dots (流星の幕場)	1989	油彩・カンヴァス	162.3×130.5
草間彌生	Infinity Nets B.A.Q.	1989	油彩・カンヴァス	162.3×130.5
草間彌生	無限の網 永劫回帰	1989	油彩・カンヴァス	162.0×130.3
草間彌生	Infinity Nets (2.Q.O.)	1989	油彩・カンヴァス	162.2×130.3
草間彌生	Dots	1989	油彩・カンヴァス	162.2×130.3
草間彌生	Dots (2.Q.B.)	1989	油彩・カンヴァス	162.0×130.5
草間彌生	無限の網 天の彼方まで	1989	油彩・カンヴァス	130.0×162.2
勅使河原蒼風	群れ	1953	鉄	103.0×184.0×57.0
勅使河原蒼風	ピーナス	1957	木	68.0×65.0×54.0
勅使河原蒼風	クビ	1962	木	129.5×62.5×30.0
勅使河原蒼風	わかれ	1963	鉄	120.0×33.0×32.5
勅使河原蒼風	ミコ	1967	銅	96.0×49.0×25.0
勅使河原蒼風	クサナギ	1967	銅	252.5×64.5×50.0
勅使河原蒼風	題不祥	不祥	銅	44.0×53.0×48.0
南城一夫	フルート奏者	1971	油彩・カンヴァス	23.5×32.5

藤牧義夫関連資料 全17点

4.館蔵作品貸出状況

作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期
ベン・ニコルソン	コンポジション 1947	神奈川県立近代美術館 葉山	ベン・ニコルソン展	神奈川県立近代美術館 葉山 2.7-3.28
		愛知県美術館	ベン・ニコルソン展	愛知県美術館 4.9-5.23
		東京ステーション ギャラリー	ベン・ニコルソン展	東京ステーションギャラリー 5.29-7.25

平成16年度にかけての巡回展への継続貸出を含む。

5.保存・修復

修復等

作者名	作品名	技法・材質	種別	処置内容
バリー・フラナガン	鐘の上の野兔	ブロンズ	彫刻	ブロンズ表面コーティング

B 図書資料その他

平成15年度 収蔵図書

種類区分	一般図書	定期刊行物	カタログ	年報目録	研究報告	その他	計
購入	221	223	8	2	0	2	456
寄贈	192	455	668	150	71	0	1,536
計	413	678	676	152	71	2	1,992

(平成15年12月12日現在)

群馬県立館林美術館作品収集委員

氏名	職名
雪山行二	横浜美術館長
水沢勉	神奈川県立近代美術館企画課長
横山勝彦	練馬区立美術館主査(学芸員)
中林和雄	東京国立近代美術館美術課長

職員名簿

(平成15年4月1日～16年3月31日)

館長	木島俊介
副館長	高橋義司
次長	岡部王二 (総務普及グループリーダー)

<総務普及グループ>

補佐	遠藤幸育
主任	石原輝子
主事	上野訓只
専門員 (学芸員)	中島幸子
主任学芸員	神尾玲子
教育普及員	天沼正江
	福田育恵
	福田香織
	紅屋浩子
	齋藤恵理
	阿南藍子
	伊羅子典代

<学芸グループ>

学芸グループリーダー

	徳江庸行
専門員 (学芸員)	松下由里
主任学芸員	伊藤佳之
学芸員	伊藤香織
学芸員	中田宏明
資料整理員	齋藤久美子

群馬県立館林美術館年報 平成15年度

平成17年1月 印刷・発行

編集・発行 群馬県立館林美術館

〒374-0076

群馬県館林市日向町2003

Tel. 0276-72-8188

フォーマット・デザイン

矢萩喜從郎

制作 上毎印刷工業株式会社